

細川氏収集多久古文書の村炭坑用具目録

秀村, 選三
九州大学石炭研究資料センター

荻野, 喜弘
九州大学石炭研究資料センター

東定, 宣昌
九州大学石炭研究資料センター

今野, 孝
福岡大学商学部

<https://doi.org/10.15017/13748>

出版情報：エネルギー史研究：石炭を中心として. 14, pp.1-35, 1986-12-25. 九州大学石炭研究資料センター

バージョン：

権利関係：

細川氏収集多久古文書の村炭坑用具目録

秀村選三 荻野喜弘
今野 孝 東定宣昌

I. 収集の経過

細川章氏収集炭坑用具は現在、佐賀県多久市多久町東の原、西小路の同氏宅敷地内の収蔵庫（土蔵）に収められている。その収集経過は次の通りである。昭和42年（1967）秀村選三はアメリカ、ヨーロッパ各地の openfield museum を見学し、当時我が国で急速に消滅・散佚しつつあった民家、生産用具、生活用具等の保存の緊急性を痛感し、これまで古文書等の調査、村落での聞き取り調査で交渉のあった各地の人々に連絡し、生産用具、生活用具等の調査、収集等を訴えたが、当時は未だ歴史民俗資料館等の設置以前の時代で、この方面への感覚は乏しく、反応は鈍かった。しかし佐賀県多久市立図書館司書の細川章氏からは、調査、収集に協力する旨の応答があった。そのため多久市（その他に壱岐等）を調査、収集予定地として、昭和43年度文部省科学研究費（試験研究）に「消滅しつつある生産用具、生活用具の調査、収集、保存、研究」の題目で申請し、採択されたので、九州大学日本経済史研究室では多久市で農具、生活用具を主とし、炭坑用具を副として調査、収集することとした（このほか壱岐において捕鯨用具、海女用具を収集）。

この調査、収集にあたっては、その緊急性、人手の不足、運搬力の不備のため、多久市に度々協力をお願いしたが、我々の説明が不十分であったためであろう、ついに積極的協力を得ることができなかった。そのため、収集の機会を逃がしたり、大量の用具を運びきれなかったこともあり、悔いが残っている。やむなく地元では細川章氏に個人的協力をお願いし、勤務時間以外の時間を利用して収集にあたってもらった。我々のグループと細川氏は相互に協力して、出来るだけ1用具2点以上を収集し、1点は細川氏のもとに保存することとしたが、その後細川氏が長い年数をかけて独力で集められたものも少なくない。細川章「わが石炭資料収蔵庫報告記」（『エネルギー史研究ノート』No.5）によれば次の日程で収集が行われた。

昭和43年(1968)9月18日

第1回収集打合せ、出席者、細川章(多久市立図書館司書)、秀村選三(九州大学教授)、武野要子(福岡大学商学部教授)

同年10月

細川、秀村、武野、松下志朗(九州大学助教授)、長野暹(佐賀大学教授)ら、多久市北多久地方の炭坑用具収集。同時にもと鳥越坑坑主および北多久町老人クラブで聞取調査。はじめは農具、生活用具等の調査、収集のため多久市内各地区を廻ったが、炭坑用具の収集、保存がきわめて緊急性を要することに気付き、漸次炭坑用具の収集に集中し、当時西杵炭鉱に居た竹上俊夫氏の協力を得るようになった。

同年11月

もと畑瀬・滝の山坑主ならびに多久市四下のもと坑夫の聞取調査と用具収集。

昭和44年1月～5月

多久市内のもと女坑夫の人たちの聞取調査と用具収集。

同年4月

細川、秀村ら杵島炭鉱閉山による同坑用具収集。

昭和45年1月～3月

もと女坑夫の人たちの聞取調査と用具収集。

昭和47年11月

細川、秀村、松下、明治佐賀・同西杵坑閉山による両坑関係用具収集。

昭和48年6月

細川、秀村、長崎県北松浦郡福島町福島坑において、用具収集。

これらを主たるものとして、それ以外は細川氏がコツコツと1点ずつ収集されたものである。

II. 収集炭坑用具の特色

この収集された用具類の特色は、次のとおりである。

1. 前述のように、福島炭鉱(佐賀県北松浦郡)をのぞけば、佐賀県多久市を中心として、その周辺部の東松浦郡、小城郡、杵島郡の用具を主とするものであること。

2. 手掘り時代からの手労働の用具であること。

もともと「科学研究費」の申請においては生産用具、生活用具ともに主として手労働の用具に限定しており、前掲「報告記」も「近代的な設備を完備した鉱山の用具などとても私たちの手に負えるものではないし、収蔵する場所だけでも広大な敷地を必要とする。それに私には巨大な選炭機一つとってもその機能を理解することなどとても出来そうにもないことであった。そこで手掘りの段階を重点的にということになったのである」と記している。

この点について、さらに補足すれば、こうした手掘り段階の用具が昭和40年代に収集可能であった（極めて困難であったにせよ）理由のひとつは、次のような事情にあった。

多久市周辺における石炭採掘のもっとも古い記録は、宝暦元年（1751）杵島郡大崎村之内大副山（現在杵島郡北方町）での採掘記録（細川章「肥前多久御屋形日記の中の石炭記事」、『エネルギー史研究ノート』No.6）であり、非常に早くから石炭採掘が行なわれてきた歴史を有した。しかも明治初頭には、小城郡多久町1、小侍村11、多久原村4、杵島郡大崎村1、志久村2、福母村3、と多数の炭坑が稼行していた（「明治六年官省進達」、秀村選三他編『明治前期肥前石炭礦業史料集』所収）。後に明治32年の貝島の進出を最初として、三菱、明治が進出するが、なお多久市および周辺では、第二次大戦後の朝鮮戦争の頃まで小炭坑が多数存在し、「薄層を全く用いず、スラで引出し、竹製の万斛で選炭をしていた」（細川、前掲「報告記」といわれる。このことはエネルギー革命による多久市内の炭鉱閉山状況を示す次の表によってもうかがうことができる。

以上のような事情から、細川氏らの努力によって、手掘り段階の用具の収集が可能であったのだが、表からも明かなとおり、細川氏収集用具は、収集開始期に稼行していた炭鉱はすでに大手炭鉱のみであったこと、また収集費用がなかったこともあって、一定の限界を持つものであったと言わなければならない。

3. 手労働の炭坑用具の原初的なものは農具と共通乃至多少改変したものである（たとえばツルハシ、カキ枝、ホゲ、マンガク等）。はじめ農具の調査、収集と併行して行なったのもこの点の理解に良かったと思う。

※なお細川氏の収集と同時に行なわれた九州大学日本経済史研究室収集の炭坑用具はその後九州大学に石炭研究資料センターの設置にともない、同センターへ移されている。

多久市内炭鉱の閉山状況

炭鉱名	会社別	閉山年月	閉山時の従業員	整理方式	所在地
多久原		昭和33. 4	128人	買上	北多久町多久原
木村		34. 5	0	消滅	北多久町番所
畑瀬		36. 6	73	(△)	北多久町柚木原
山犬原	(北島)	36. 6	130	買上	北多久町山犬原
蒔原		37. 3	34	交付	北多久町砂原
大伸		37. 6	30	交付	北多久町多久原
船山		37. 7	10	消滅	北多久町柚木原
小城		37. 7	1,552	交付	東多久町池の平
立山	明治	38. 2	702	交付	北多久町立山
吉原		38. 5	139	(△)	北多久町柚木原
井手		38. 6	72	交付	北多久町蒔原
番所		38. 7	39	保安(○)	北多久町番所
多久		42. 1	150	交付	北多久町柚木原
柚木原		42. 1	15	交付(△)	北多久町柚木原
北島		42. 2	100	交付(△)	北多久町柚木原
古賀山	三菱	43. 1	1,268	交付	北多久町多久原
明治佐賀	明治	44. 7	940	交付	北多久町多久原
※佐賀	新明治	47.11	300	交付	北多久町宮の浦

(注) 会社別の記載がないところは、一山一社の炭鉱である。

△は、柚木原共同鉱区の炭鉱である。

※は、明治の第二会社である。

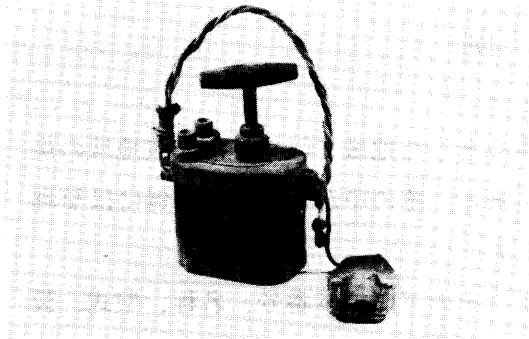
○は、保安炭鉱方式を放棄した。

(出典) 川内昇、「炭鉱閉山始末記(I)」(『エネルギー史研究ノート』No.7、76頁による)。

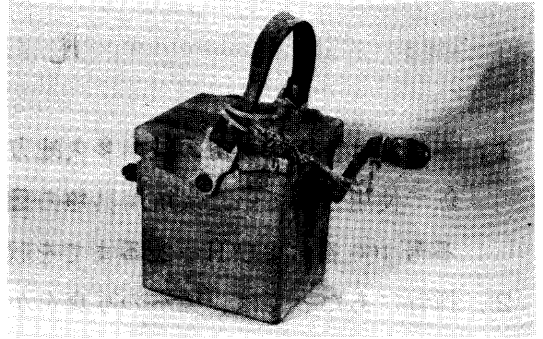
凡 例

1. 本目録は、唐津炭田の肥前多久地方を中心とした地域で収集した、該地域の炭鉦で使用されていた炭坑用具類の目録である。その中から今回本目録には整理番号 160 番および H-22 番までを収録した。
2. 採録にあたっては、標本の写真をかかげ、その下に標本番号、名称、型式、製造番号、外形寸法、製造者、製造年月日、採集地、採集年月日、および備考・注記事項等を必要に応じて記載した。
 - a. 名称については、もっとも一般的に使用されたとと思われるものを採用し、別称・俗称などは（ ）内に、また仮標目には〔 〕を付けて示し、また名称のわからないものは、〔不詳〕とした。
 - b. 機械・器具類については、その銘板等によって型式、製造番号、製造者、製造年月日等を記載したが、これらのないもの、および判読しがたいものは記載しなかった。
 - c. 外形寸法については、調査時に作図をして、詳細な計測を行なっているが、本目録には、主要な数値を掲げるにとどめた。数値は、単位はミリメートル、基本的には タテ×ヨコ×高サ で示したが、必要に応じて計測部位を適宜表示したことがある。また外形寸法の記載を省略したものもある。
 - d. 標本は、採集時に名称その他に関する項目を記入した札を付し、保管されていたが、今回の調査時までの間にこの札が汚損あるいは紛失したものがあり、そのため〔不詳〕とせざるをえないものもあった。
3. 本目録の作成には、秀村選三、東定宣昌、荻野喜弘、今野孝があたり、特に細川章氏の協力を得た。また写真撮影および計測には、当時九州大学経済学部学生であった吉川秀孝、中島昭の両君の協力を得た。

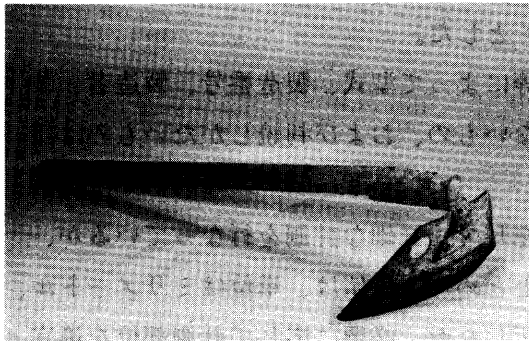
(付記) 本目録は、昭和58~59年度文部省科学研究費補助金 一般研究(C)「九州産炭地域における炭坑用具の目録作成とその産業考古学的研究」による成果の一部である。



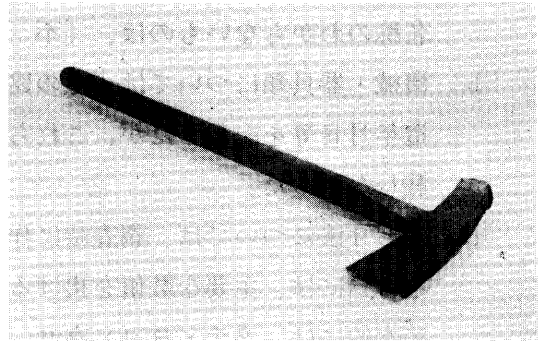
1. 三菱サンダー発破器
 型式 2A-20 製造番号 462112
 本体 120×85×15 ハンドル 85×88
 明治佐賀鋳業村上組 昭和48年1月8日



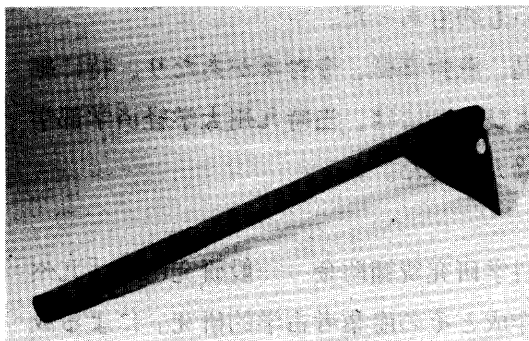
4. 旭式電気発破器
 型式ABC 番号 1092 容量 50発掛
 本体 140×147×160 ハンドル 88×55
 旭化成工業株式会社製造



2. カキ板
 柄 665 刃幅 238



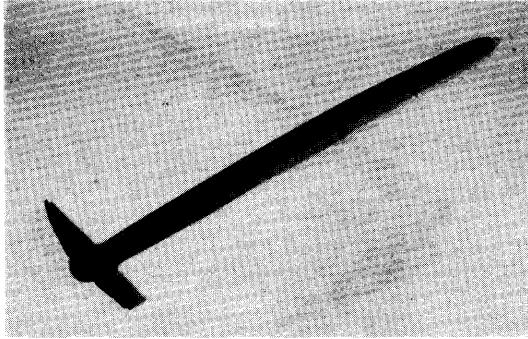
5. 仕繰斧
 柄 525 刃長 165 刃幅 70



3. カキ板
 柄 665 刃幅 255
 西杵炭鋳 昭和48年1月17日



6. 仕繰斧
 柄 306 刃長 150 刃幅 70
 備考一手製カバー付

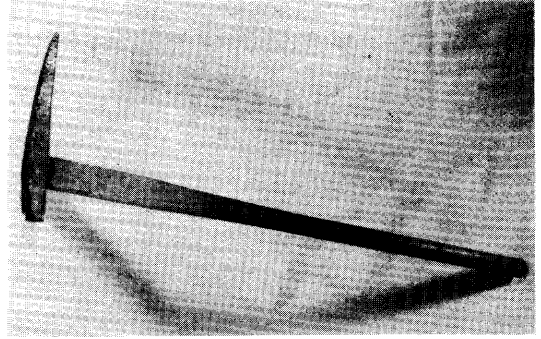


7. ピッケル

柄 550 刃長 155

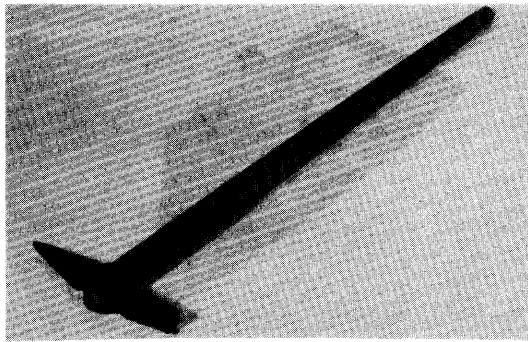
明治佐賀鉱業村上組 昭和47年12月11日

備考一柄に「滝口」の彫刻あり



10. ツルバシ

柄 890 刃長 280



8. ピッケル

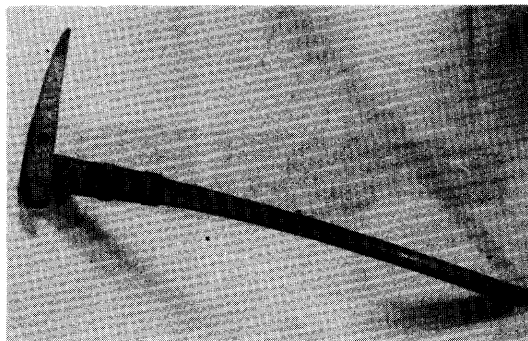
柄 665 刃長 145 昭和45年3月1日

備考一 多久市筋原、市丸秀太氏（元坑業）が明治末から使用、斤量方が炭車の石炭の吟味に使用



11. ガンヅメ

柄 760 刃長 145 刃幅 190

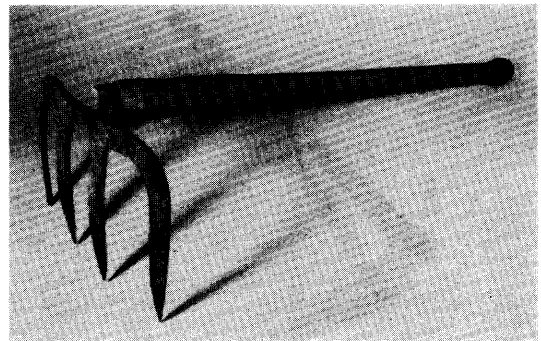


9. 改良ツル

柄 884 刃長 239

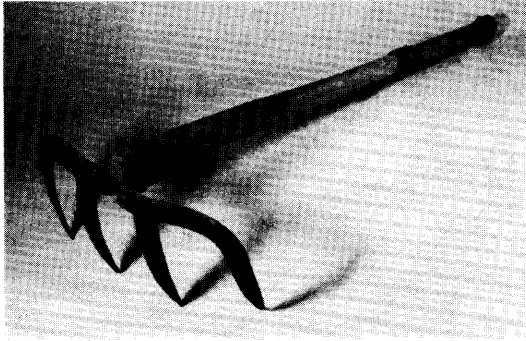
多久市筋原、佐賀金属（古鉄商）

昭和45年2月15日



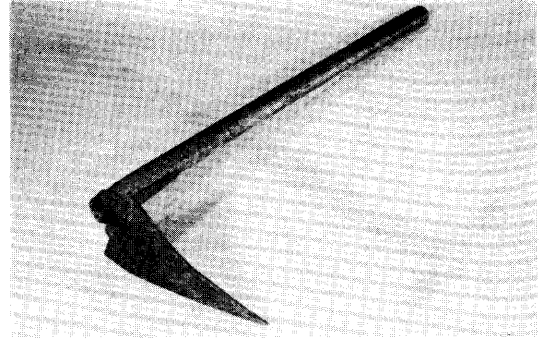
12. ガンヅメ

柄 815 刃長 210 刃幅 290



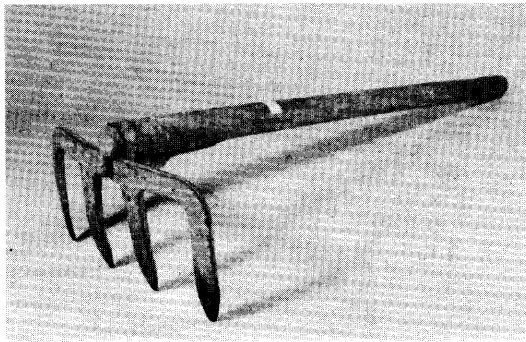
13. ガンヅメ

柄 895 刃長 200 刃幅 300



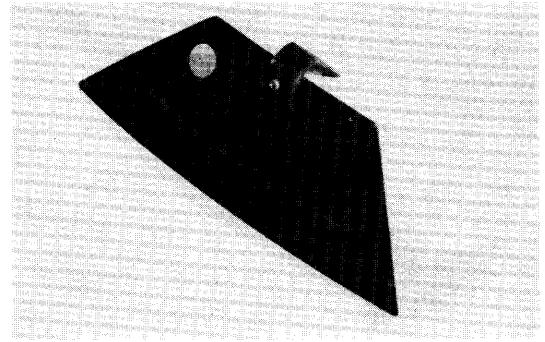
16. ジョウレン

柄 665 刃長 195 刃幅 125



14. ガンヅメ

柄 662 刃長 125 刃幅 205



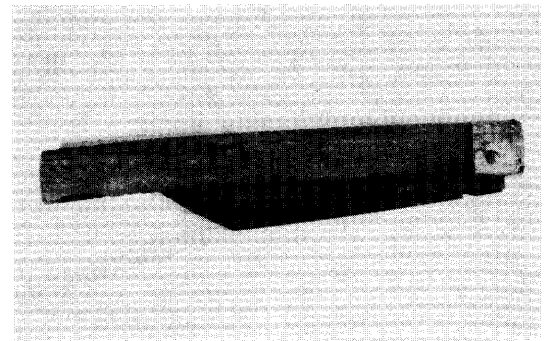
17. カキ板 (柄なし)

刃長 100 刃幅 170 取付金具 52+87
穴 22φ



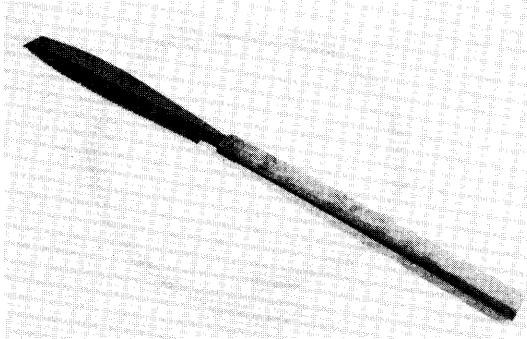
15. ジョウレン (カキ板)

柄 560 刃長 170 刃幅 120
明治鋳業 昭和48年1月18日

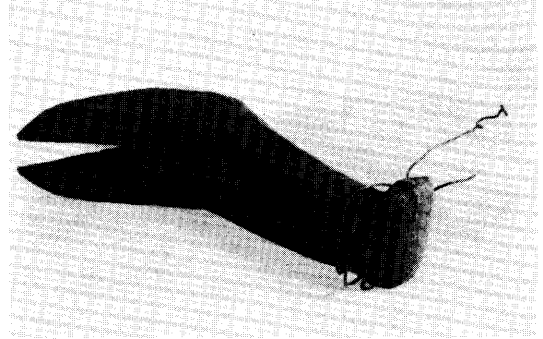


18. 坑内鋸

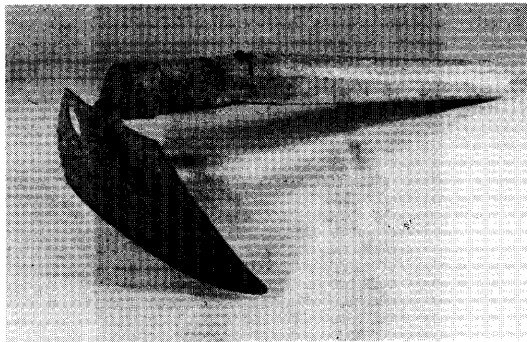
柄 337 刃 180×57
昭和48年1月10日
備考一折たたみ式



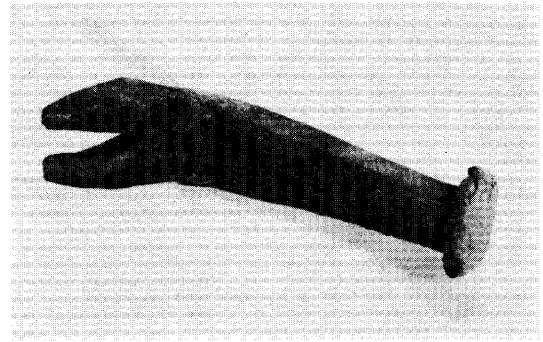
19. 坑内鋸
柄 520 刃 387×60



22. 牛の爪
153×45×33



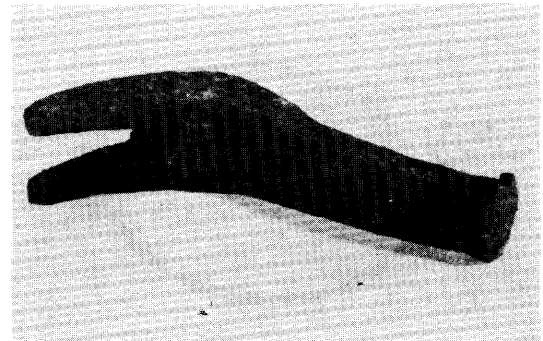
20. カキ板
柄 395 刃長 95 刃幅 245
備考一柄が途中で折られている



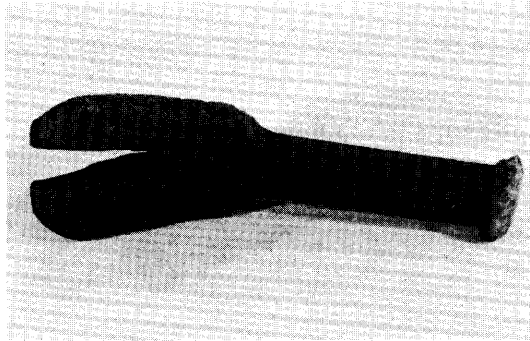
23. 牛の爪
175×45×25
多久市蒔原、山本商店（炭坑用具商）
昭和45年2月15日



21. 牛の爪
192×46×23
西杵炭鋳 昭和48年1月17日



24. 牛の爪
157×41×32
西杵炭鋳 昭和48年1月17日



25. 牛の爪

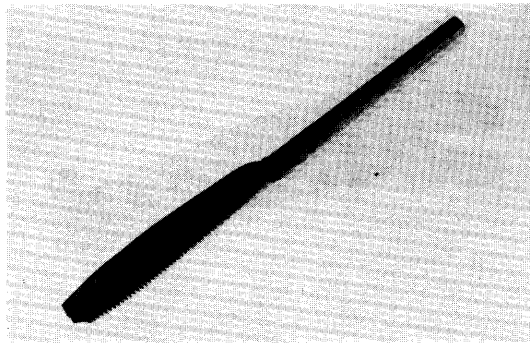
225×73×30

西杵炭鋳 昭和48年1月17日



28. 輪

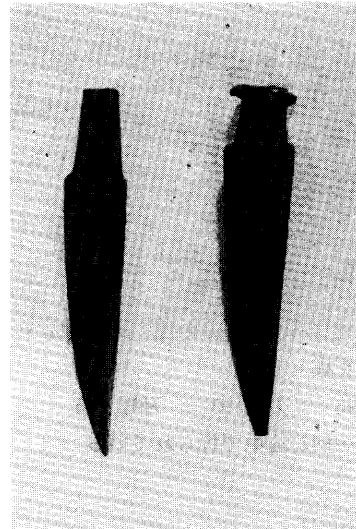
220×250 線径 10φ



26. 鋸

全長 732 柄 400 刃 332×65

西杵炭鋳 昭和46年1月17日

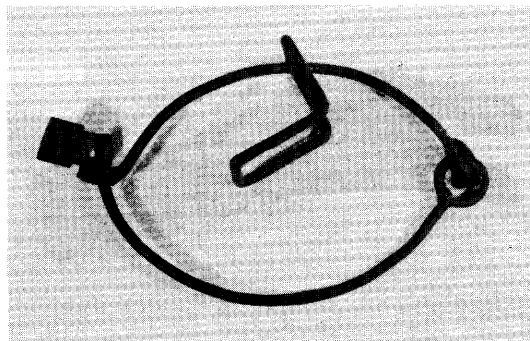


29. 改良ツル穂先 (写真、右)

全長 160 刃 133 最大幅 30

最大厚 20

備考—「稲富」の彫刻あり、タガネの代用にされたものと思われる



27. 輪 (盗難防止器)

径 293φ 線径 8φ

明治佐賀鋳業村上組 昭和47年12月11日

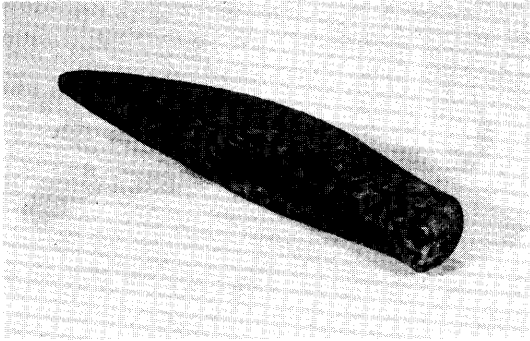
備考—鍵付き

30. 改良ツル穂先 (写真、左)

全長 175 刃 133 最大幅 27

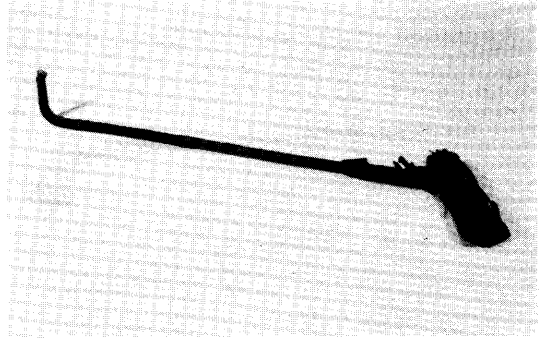
最大厚 17

備考—「北田」の彫刻あり



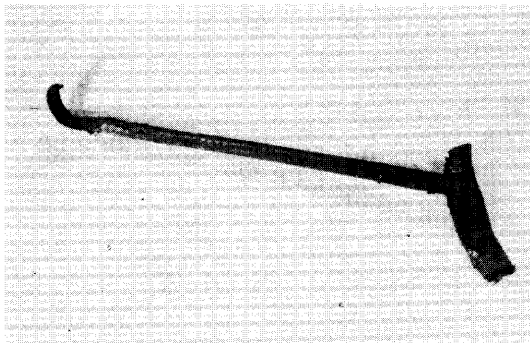
31. ツル穂先

全長 250 最大幅 37 最大厚 42



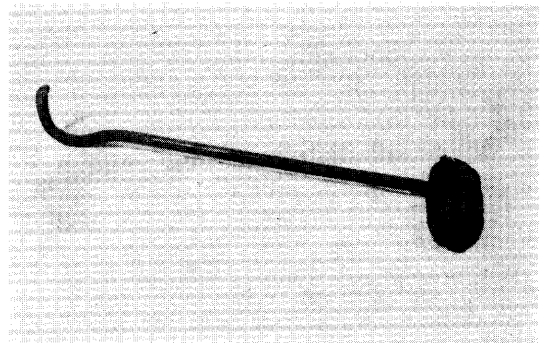
34. ケンカキ

全長 350 鈎部 52 握部 105



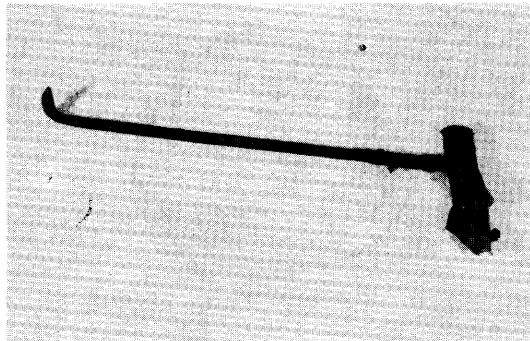
32. ケンカキ

全長 405 鈎部 72 握部 130



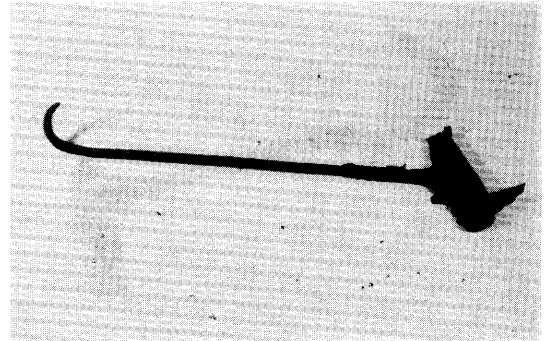
35. ケンカキ

全長 410 鈎部 70 握部 115
昭和48年



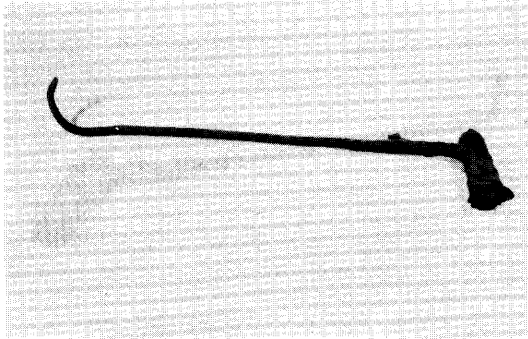
33. ケンカキ

全長 342 鈎部 43 握部 100

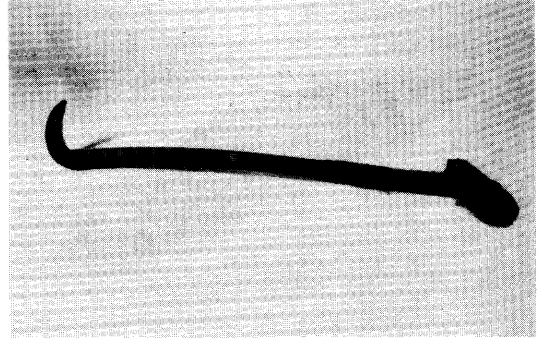


36. ケンカキ

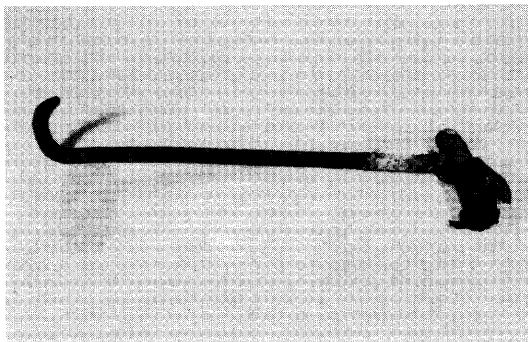
全長 385 鈎部 70 握部 110
西杵炭鉤 昭和48年1月17日



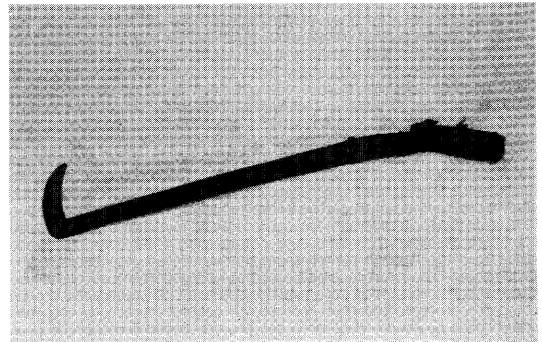
37. ケンカキ
全長 395 鈎部 60 握部 95
西杵炭鉱 昭和48年1月17日



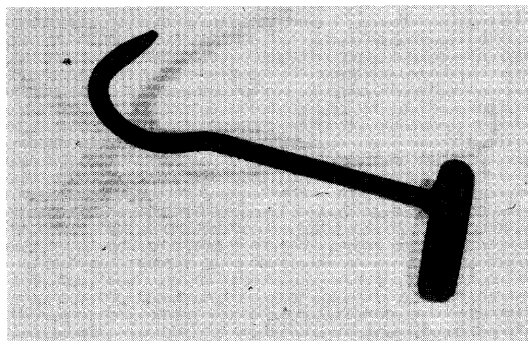
40. ケンカキ
全長 40 鈎部 72 握部 100
西杵炭鉱 昭和48年1月17日



38. ケンカキ
全長 403 鈎部 74 握部 118
西杵炭鉱 昭和48年1月17日



41. ケンカキ
全長 439 鈎部 70 握部 100
西杵炭鉱 昭和48年12月9日



39. ケンカキ
全長 252 鈎部 85 握部 107
明治佐賀鉱業村上組 昭和47年12月11日



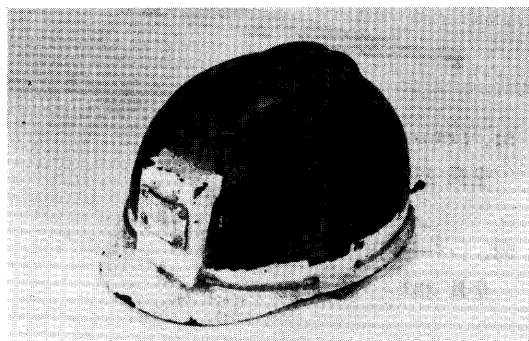
42. ヘルメット
240×220×145 合成樹脂製
備考一明治鉱業の社章付き



43. ヘルメット
215×210×135 アルマイト製



46. ヘルメット
240×213×125 アルマイト製
備考-「保安係員」・「よいか推進委員」のプレート付き、緑色ビニル・テープ巻き



44. ヘルメット
253×195×120 合成樹脂製



47. ヘルメット
225×205×145 アルマイト製
備考-赤色ビニル・テープ巻き



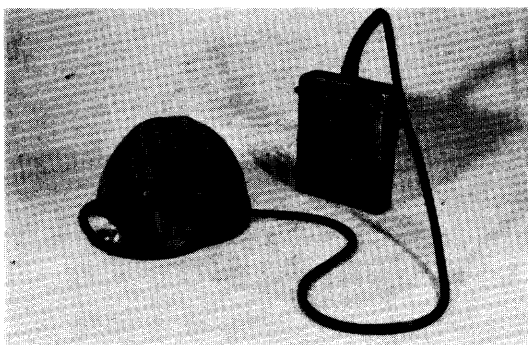
45. ヘルメット
245×200×140 アルマイト製
備考-「火薬係員」のプレート付き、「和田」の記名あり



48. ヘルメット
244×198×130 ステンレス製



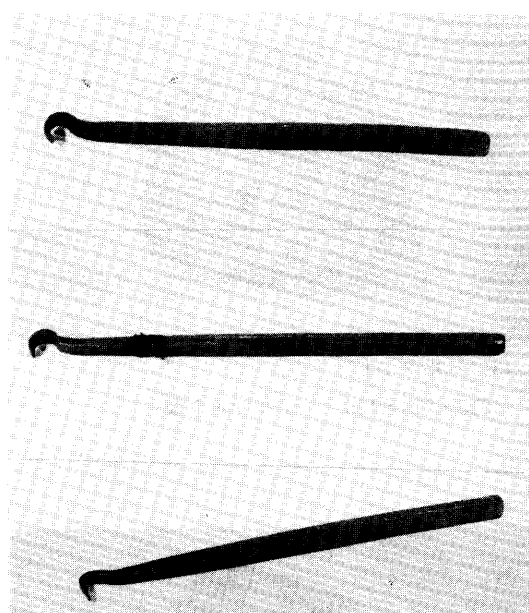
49. ヘルメット
205×225×145 アルマイト製
備考-「よいか推進委員」のプレート付き



50. ヘルメット
243×200×115 合成樹脂製
備考-キャップ・ランプ装着のようす



54. [灯心台]
上部 60φ 下部 80φ 高さ 85
明治佐賀鋳業
備考-同炭鋳古洞から採集されたもの



51. [バール]
全長 257 鈎部 25

52. [バール]
全長 333 鈎部 22

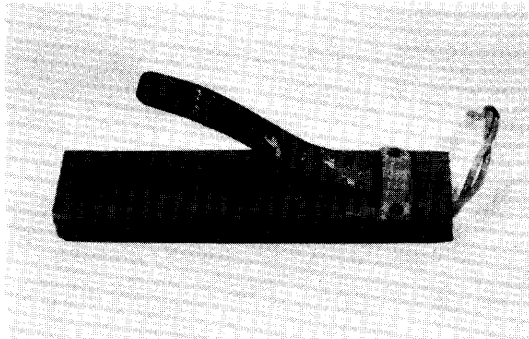
53. [バール]
全長 263 鈎部 25
西杵炭鋳 昭和48年1月17日



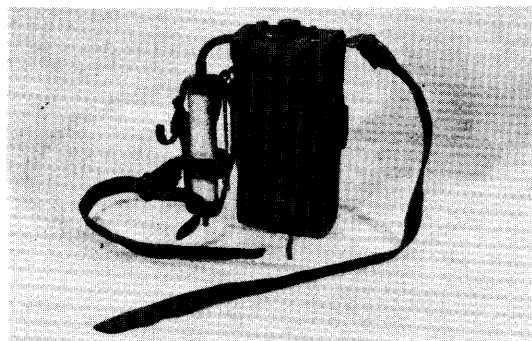
55. 東科瓦斯検定器
S10型 13462 180×95×40
東科計器株式会社製造
備考-メタン瓦斯 0~10%用



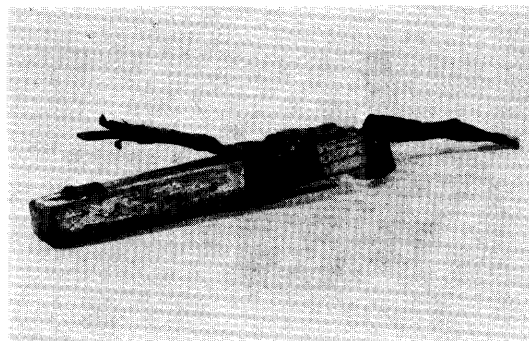
56. リトルガス検定器
TYPE A-1 No.91001 167×80×40
TOKASEIKI S.S.
明治佐賀鋳業村上組 昭和48年1月8日



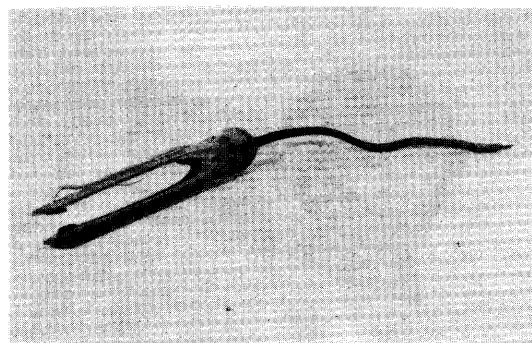
59. [手製スイッチ]
80×40×20
西杵炭鋳 昭和48年1月28日
備考—木片に銅板の接片をつけたもの



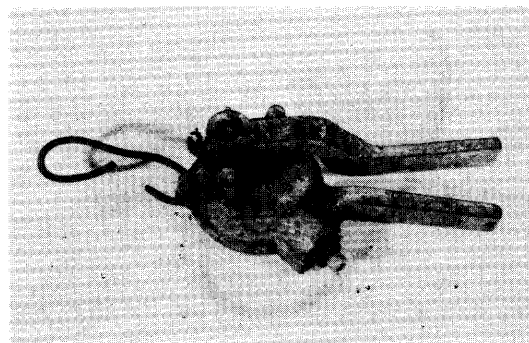
57. 理研ガス検定器
18型 188089 195×100×40
理研株式会社製造



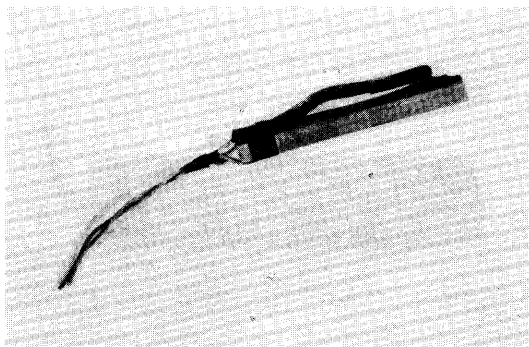
60. [手製スイッチ]
82×20×22
備考—木片に銅板の接片をつけたもの、絶縁テープ巻き



58. [手製スイッチ]
210×30 西杵炭鋳 昭和48年1月24日
備考—竹にコードを通したもの、「ディーゼル
合図器」として使用



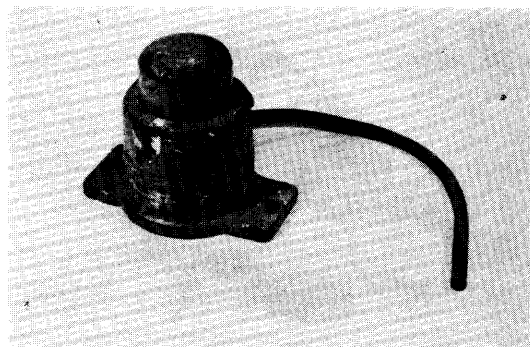
61. 耐圧電気信号開閉器
河野式 G-2型 70×72×171



62. [手製スイッチ]

180×25×23

備考—木片にゴムで絶縁した鉄片を付けたもの

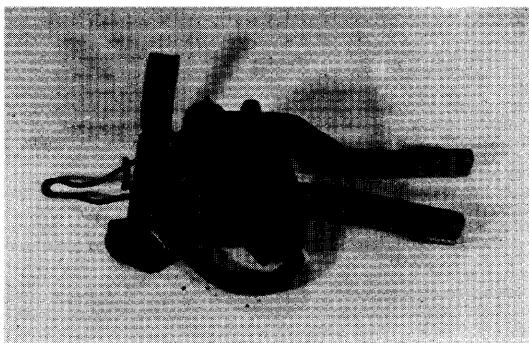


65. 防爆型押釦開閉器

上部 50φ 下部 67φ 高さ 96

取付座 50×123

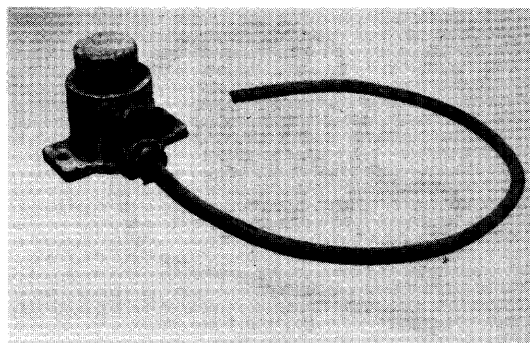
本多産業株式会社製造



63. 耐圧電気信号開閉器

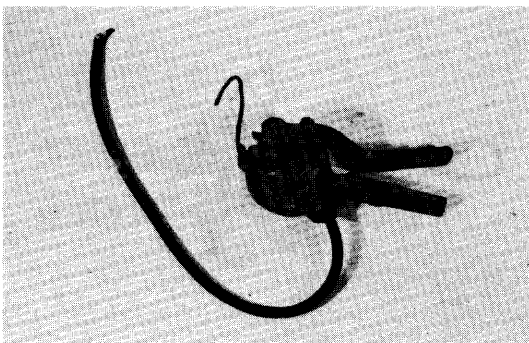
河野式 G-2型 70×72×171

※ 61 と同型品



66. 防爆型押釦開閉器

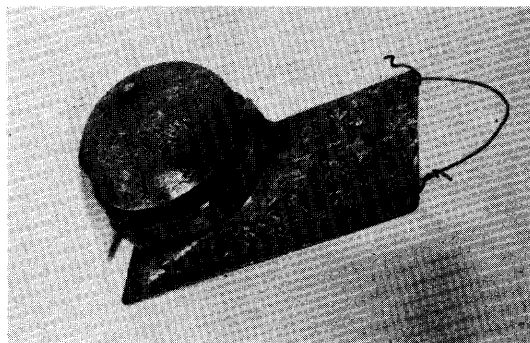
※ 65 と同型品



64. 耐圧電気信号開閉器

河野式 G-2型 70×72×171

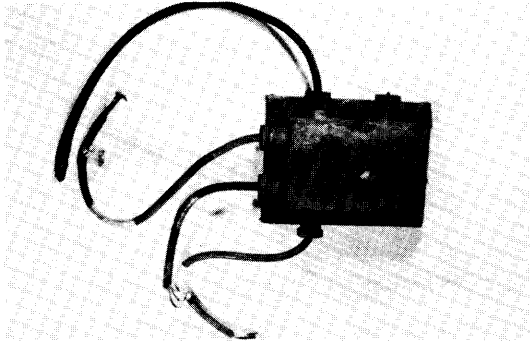
※ 61 と同型品



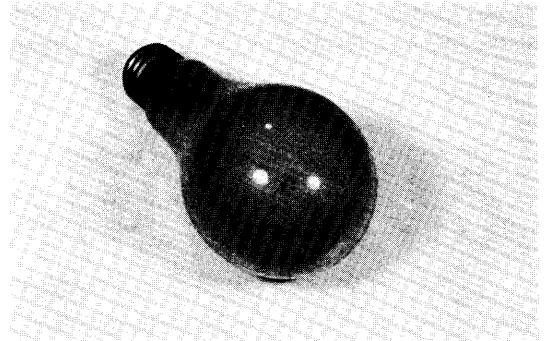
67. 耐圧電鈴

河野式 AB-4型

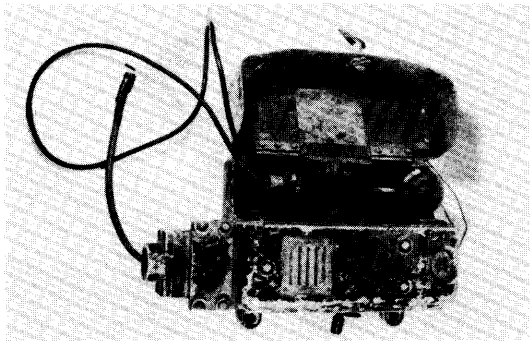
125×180φ 取付座 80×300



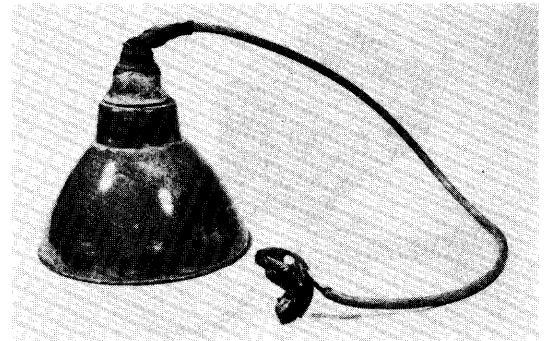
68. 操作盤
240×185×101



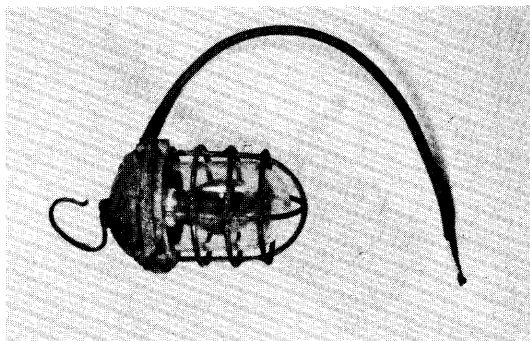
71. 〔赤色電球〕



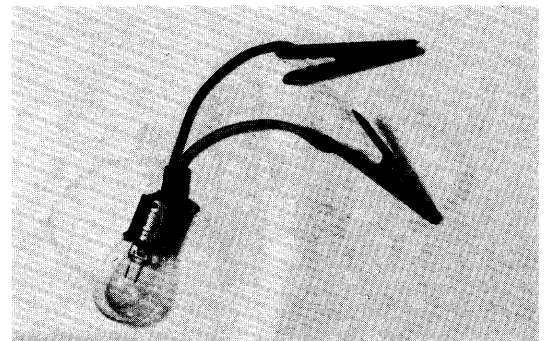
69. 防爆型磁石式壁掛電話機
型式 TWM-191-M 製造番号 511
410×265×145
沖電気工業株式会社 1965年製造



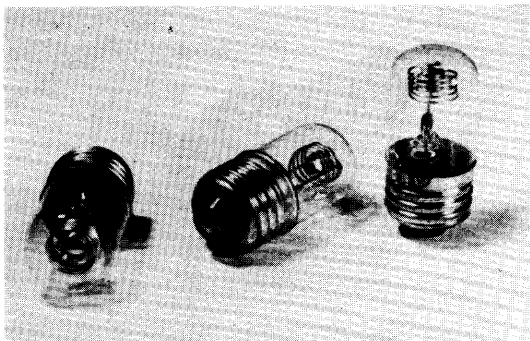
72. 詰所用電灯
180×200φ
備考一電球なし、傘のみ



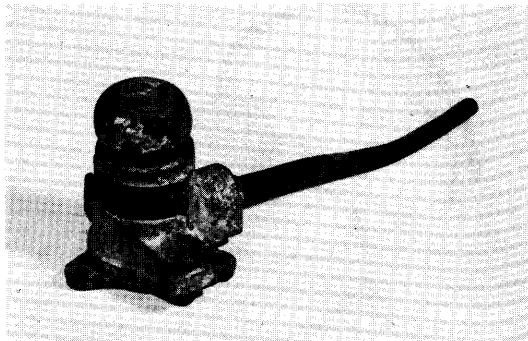
70. 防爆電灯
型式 EL-53 130×130φ
本多産業株式会社 昭和31年12月製造



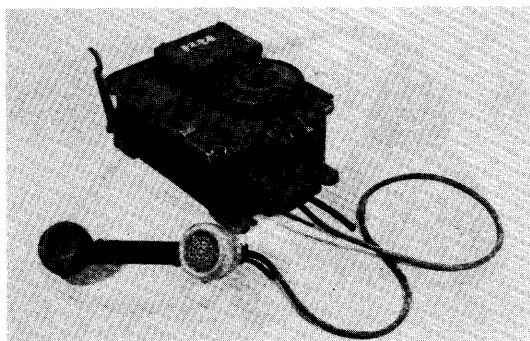
73. テスト電球
ランプ 45×25φ クリップ 52
杵島炭鉱 昭和45年2月12日
備考一キャップ・ランプのバッテリーのテスト
用



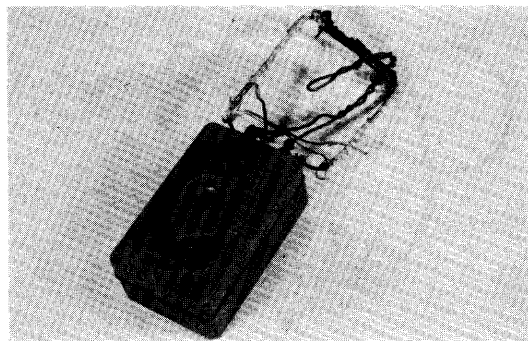
74. ネオンランプ
57×25φ 3個
明治佐賀鋳業



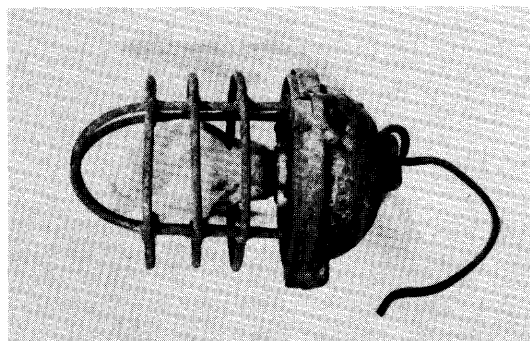
77. 耐圧電気信号押釦開閉器
河野式 C-3型 96×43φ
下関彦島、河野電機株式会社製造



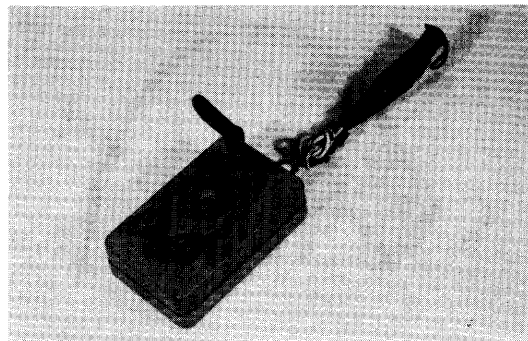
75. 耐爆型自動壁掛電話機
320×210×155
沖電気工業株式会社 昭和32年7月製造



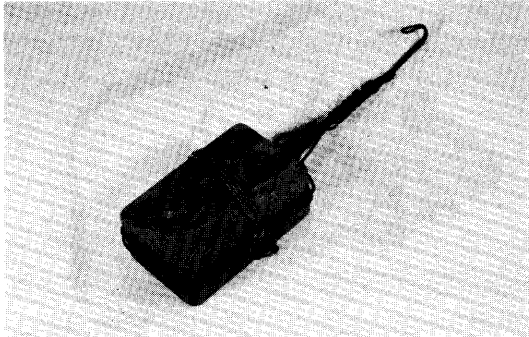
78. [旭式発破器]
136×83×57
※ 79 と同型と思われるが銘板がなく不詳、外形寸法がやや異なっている



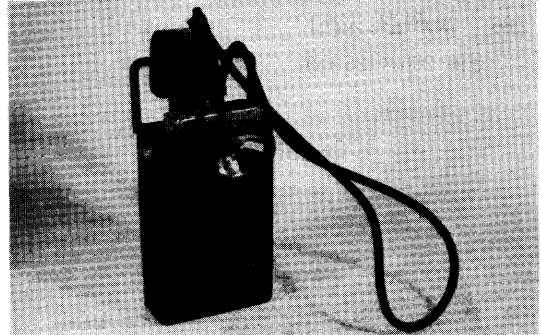
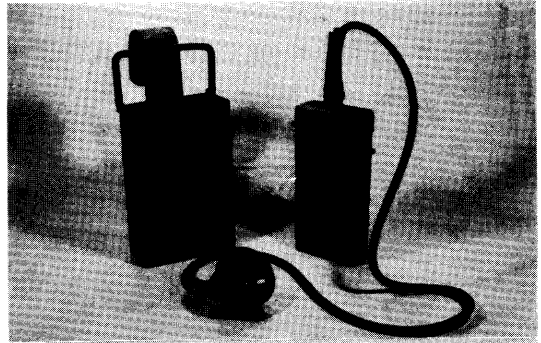
76. 防爆電灯
型式 EL-53 130×130φ
本多産業株式会社 昭和37年製造
備考一風防ガラス破損



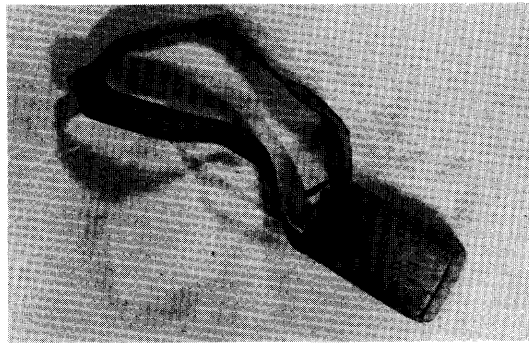
79. 旭式発破器（発掛）
型式 A-1型 25発掛
136×83×42
備考一キースイッチ付属



80. 旭式発破器
 ※ 79 と同型品、スイッチなし

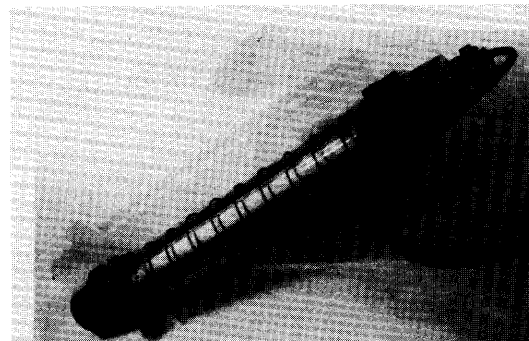


83. キャップ・ランプ (写真、上右)
 本体 119×90×40 ランプ 70φ
 HONDA DENKI

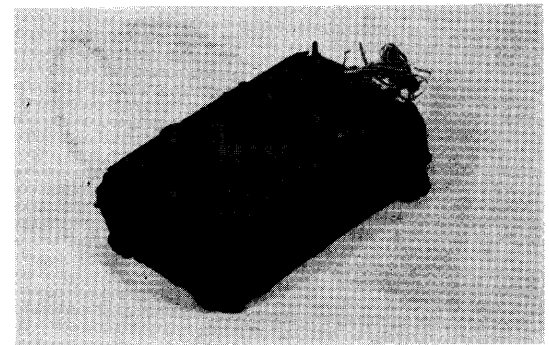


81. コンデンサー式発破器
 略称 C-2 電池式 30発掛 159×85×60
 明治鋳業 昭和48年1月18日
 備考—つり紐付きケース入り

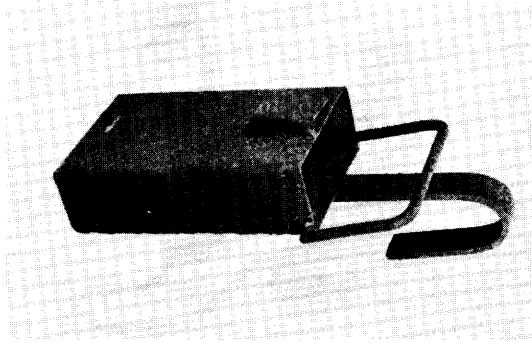
84. [炭車尾灯入れ] (写真、上左)
 265×130×58
 備考—これにキャップ・ランプを取付けて、炭車の枠に掛け、尾灯とした (写真、下)



82. 防爆型定着蛍光灯
 型式 KL-6 100V 20W
 855×140×140
 下関市河野電機株式会社製造

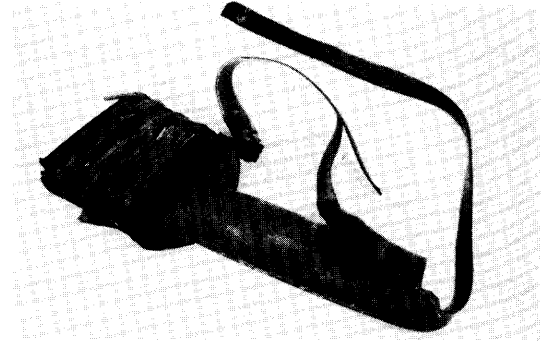


85. 旭式発破器
 ※ 79 と同型品、スイッチなし、革ケース入り



86. [炭車尾灯入れ]

本体 206×125×60 柄 130+100

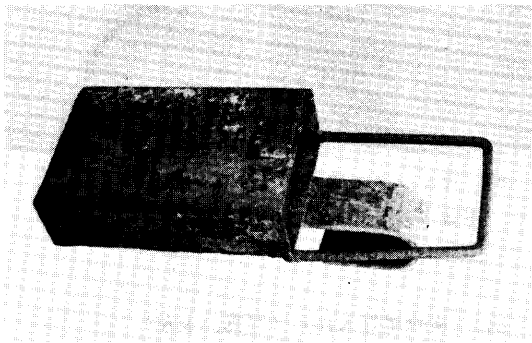


89. キャップ袋

袋 165×155×50 ベルト 1300

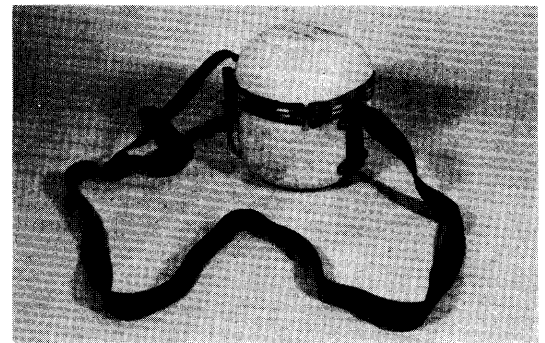
西杵炭鉱 昭和48年1月17日

備考一手製



87. [炭車尾灯入れ]

本体 345×133×60 柄 90+90

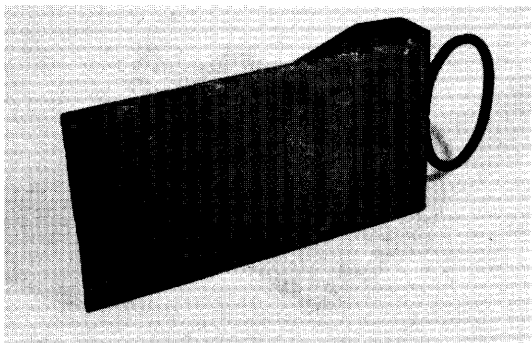


90. 自己救命器

TS No. SR-10E LOT No. 4616

105×100×130

明治鉱業 昭和48年1月18日



88. [炭車用反射板]

本体 310×160 柄 125×85

備考一橙色反射テープ3本貼付

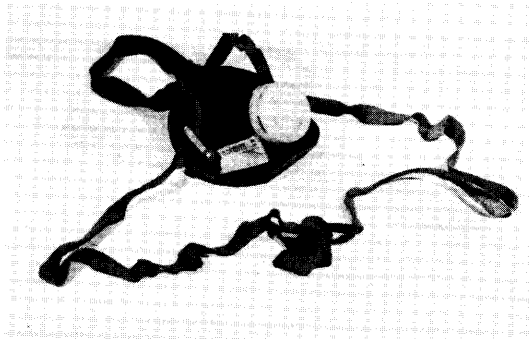


91. 自己救命器

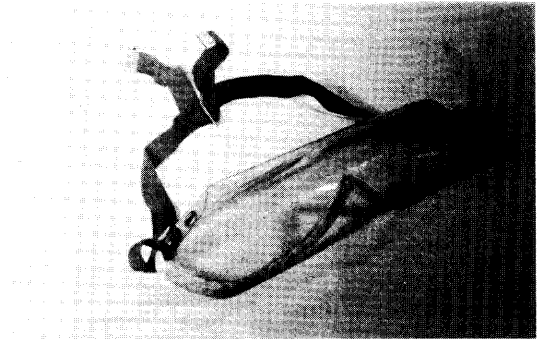
70×90φ 重松製作所 昭和41年5月製造

杵島炭鉱 昭和45年2月12日

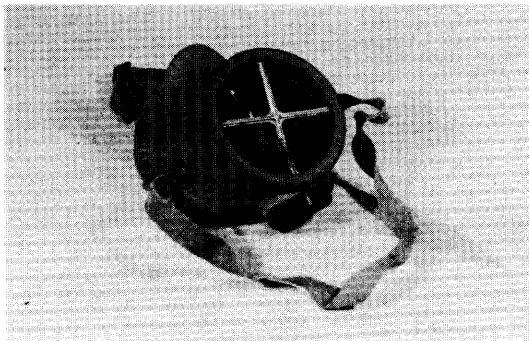
※ 90 と同型品、ケースなし



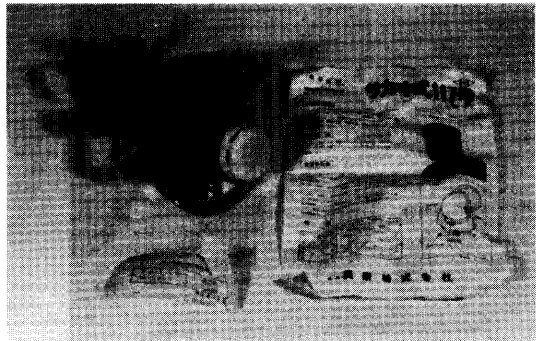
92. 防塵マスク
 サカキ式 117号 S型
 120×110×80 吸入口 45φ
 興研株式会社製造



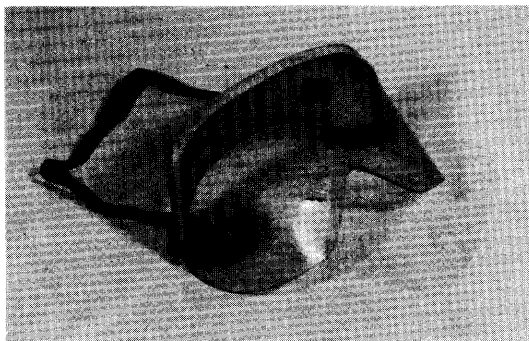
95. 防塵メガネ
 TS No.127
 175×70×40
 昭和48年1月15日



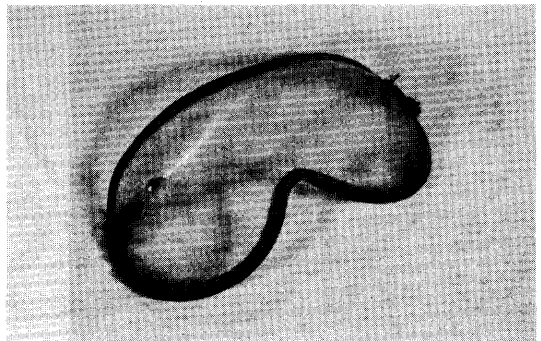
93. 防塵マスク
 TS No.2 120×105 吸入口 83φ
 杵島炭鉱



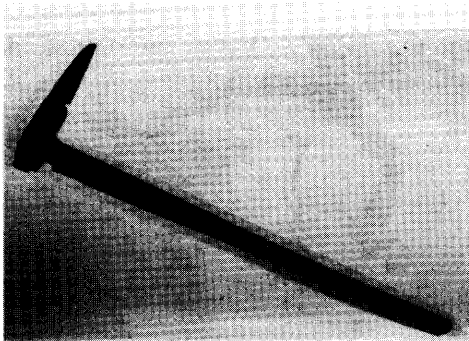
96. 防塵マスク
 サカキ式 117号 S型 120×110×80
 昭和48年1月18日
 ※ 92 と同型品、説明書付き



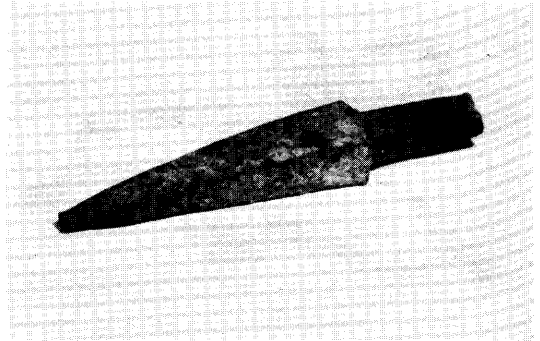
94. 防塵メガネ
 Shigematsu TS No.125
 142×95
 備考一ひさし付き



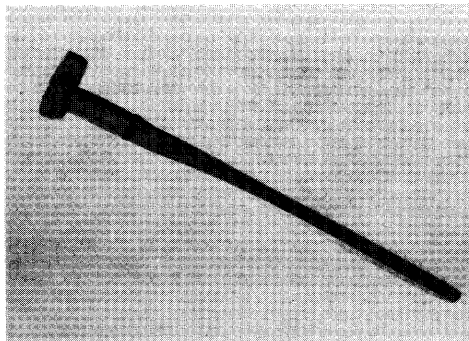
97. 防塵メガネ
 ※ 95 と同型品、紐なし



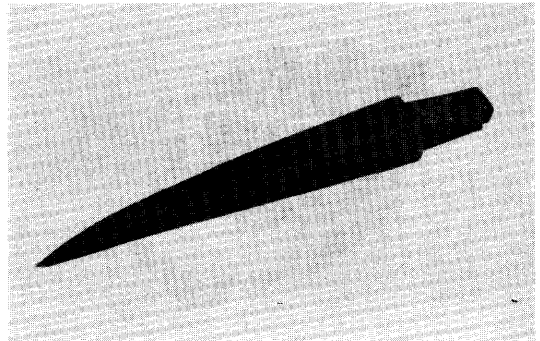
98. 改良ツル
柄 910 刃長 285



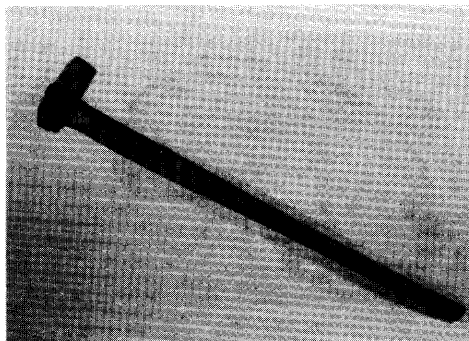
101. 改良ツル穂先
全長 142 刃 100×25×17



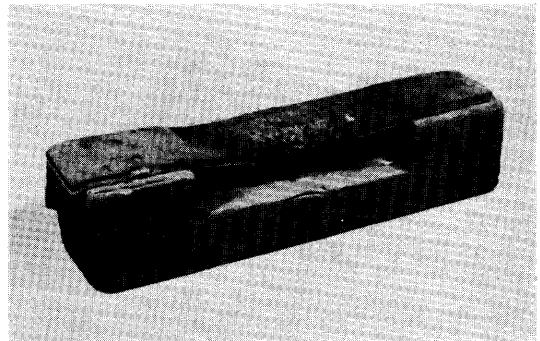
99. 改良ツル
柄 895 刃長 125
備考—穂先なし



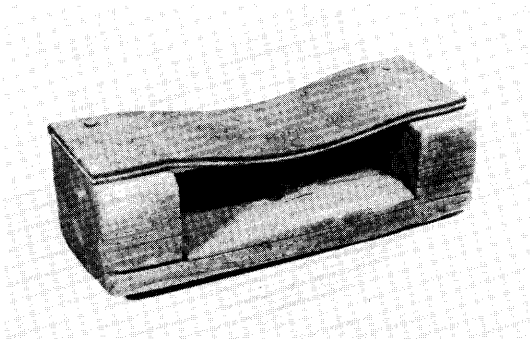
102. 改良ツル穂先
全長 227 刃 187×26×19



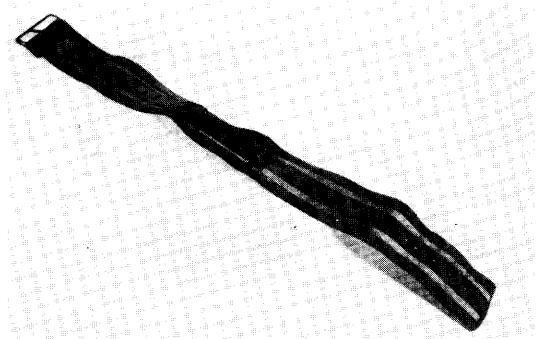
100. 改良ツル
柄 850 刃長 135
備考—穂先なし



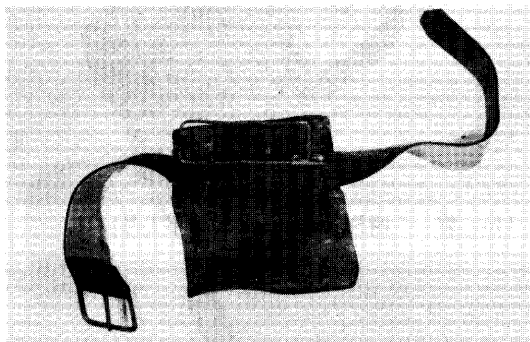
103. 〔坑内枕〕
375×90×97
西杵炭鋏 昭和48年1月17日



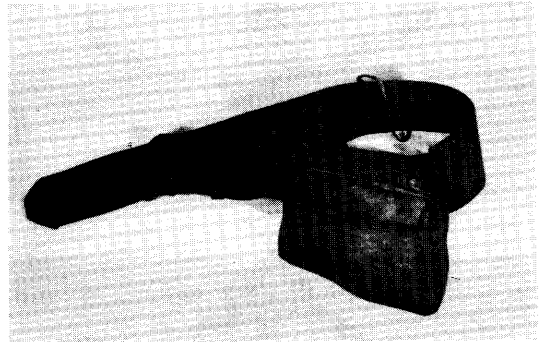
104. 〔坑内枕〕
265×105×86
西杵炭鋺 昭和48年1月17日



107. ベルト (バッテリー取付金具付き)
940×77



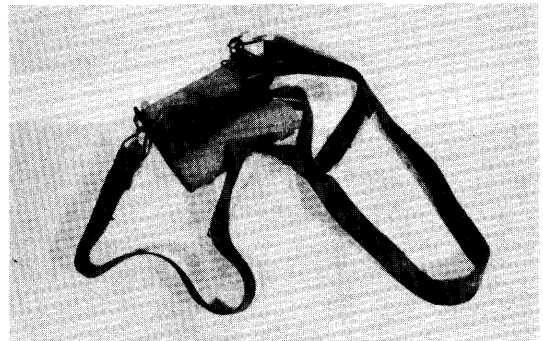
105. キャップからい
ベルト 840×60 取付部 240×110
※バッテリー装着用ベルト



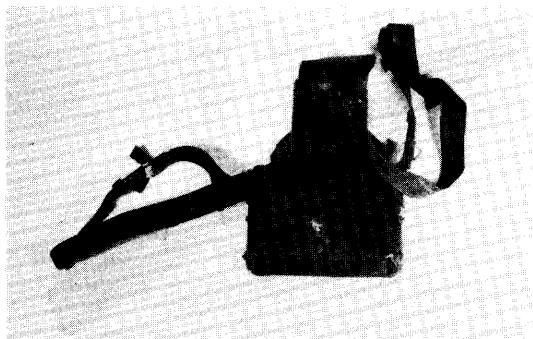
108. ベルト (バッテリー取付金具付き)
990×70
杵島炭鋺 昭和48年1月17日



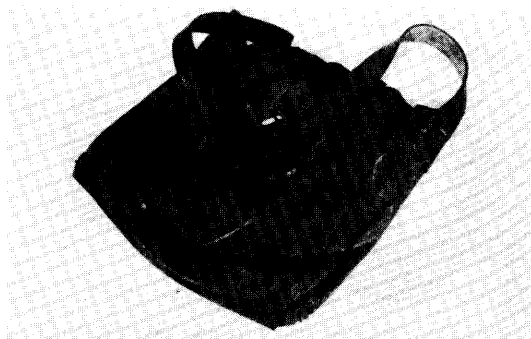
106. キャップ袋 (キャップからい)
取付部 200×106



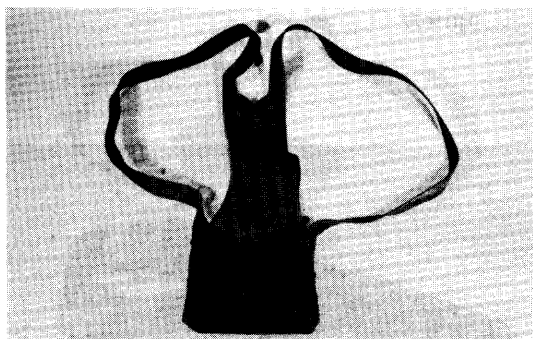
109. キャップからい
160×240



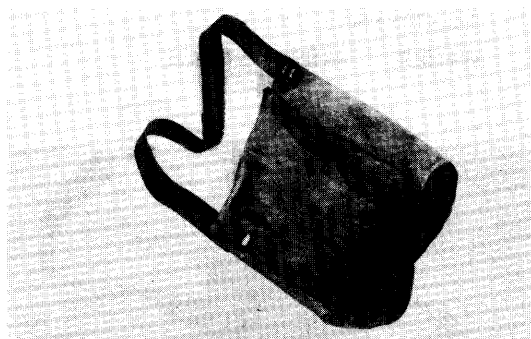
110. キャップからい 西杵炭鋳 48年1月



114. 袋



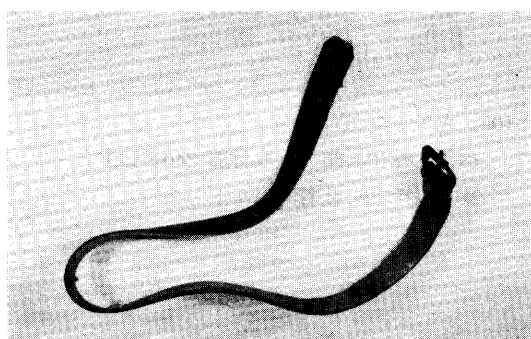
111. キャップからい



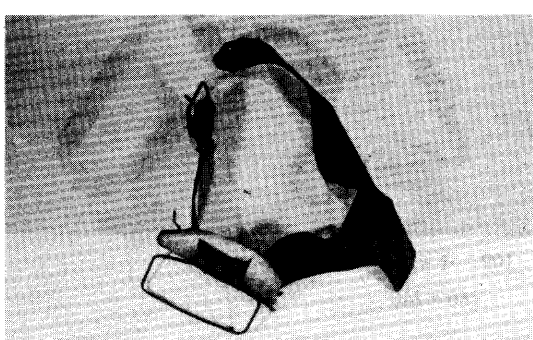
115. 袋 西杵炭鋳 昭和48年1月17日



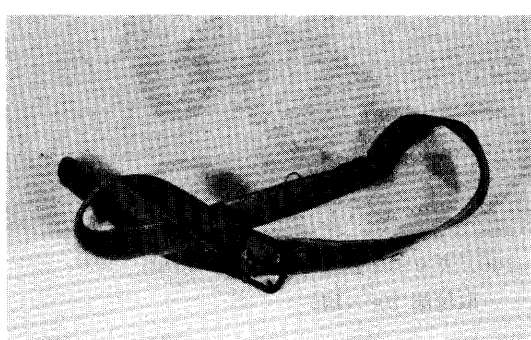
112. キャップからい



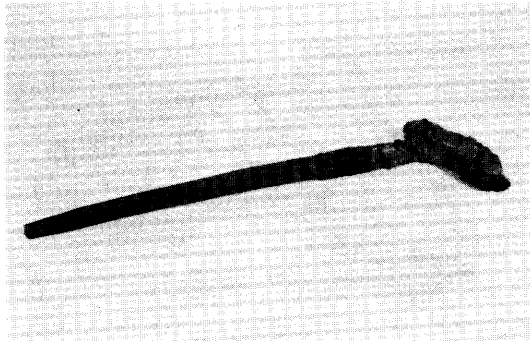
116. [手製ベルト] 850×30



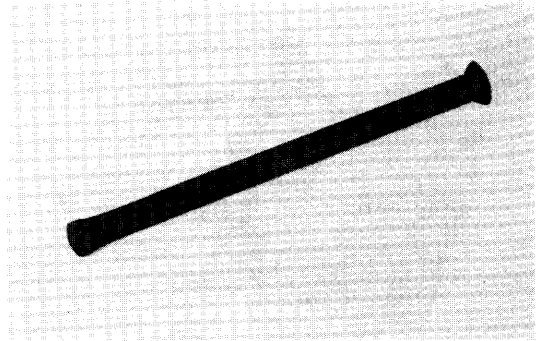
113. ベルト (バッテリー取付金具付き)



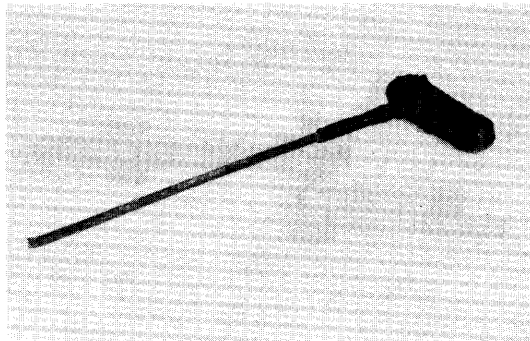
117. ベルト 970×25 計4本



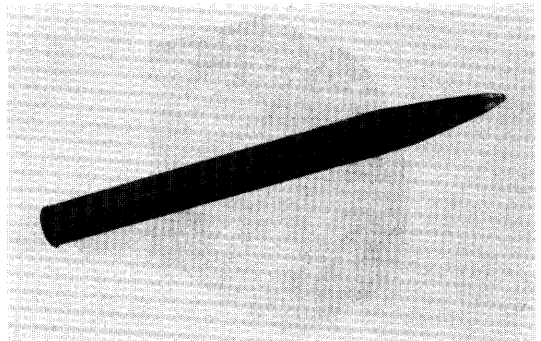
118. ケンカキ
 全長 460 握部 112
 備考—先端部欠



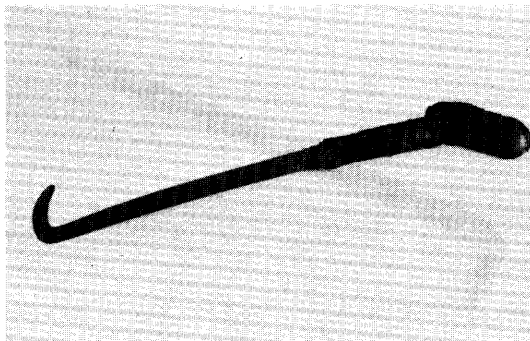
121. セットウ (ハマグリノミ)
 全長 345 刃幅 28



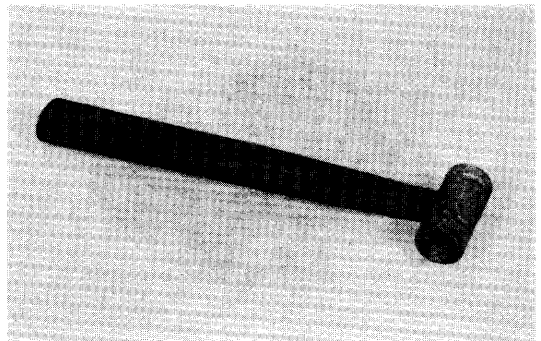
119. ケンカキ
 全長 380 握部 100
 備考—先端部欠



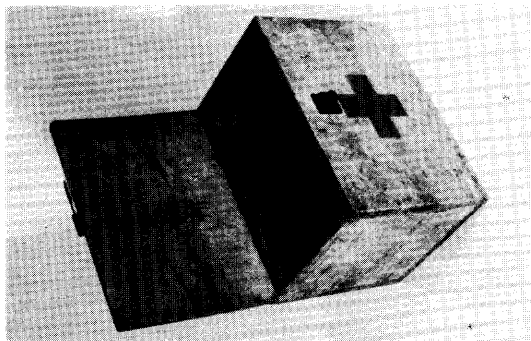
122. セットウ
 325×29φ



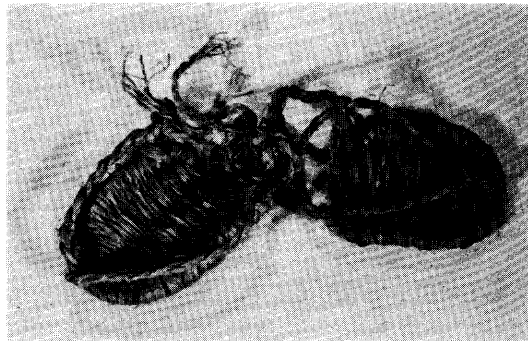
120. ケンカキ
 全長 390 鈎部 63 握部 125
 西杵炭鉱 昭和48年1月17日



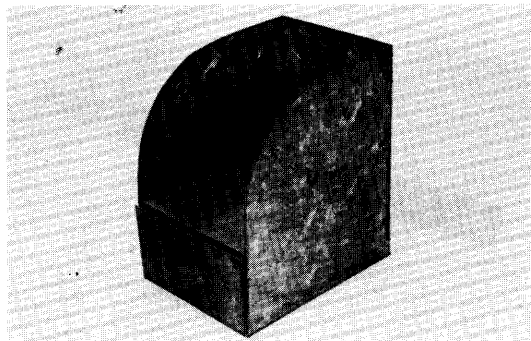
123. [工具]
 柄 253 頭部 60×23φ
 明治鉱業 昭和48年1月28日



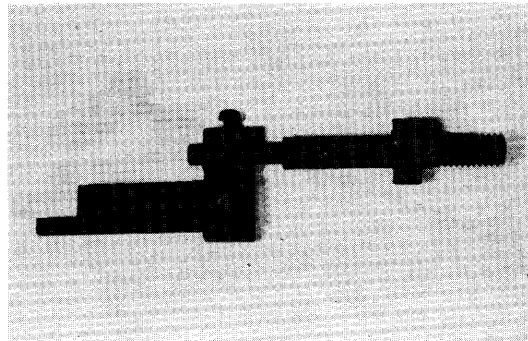
124. 救急箱
207×295×237
備考一棹取詰所備付



127. あしなか (坑内用ワラジ)
110×86



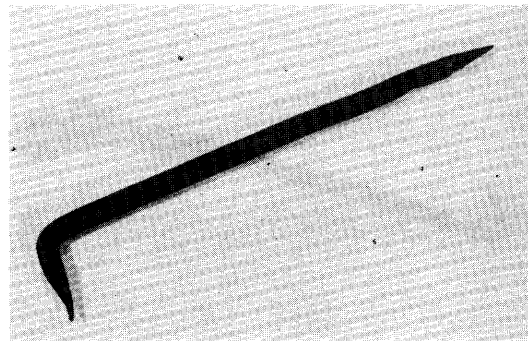
125. [ブリキ製箱]
173×128×195
西杵炭鋳 昭和48年1月17日



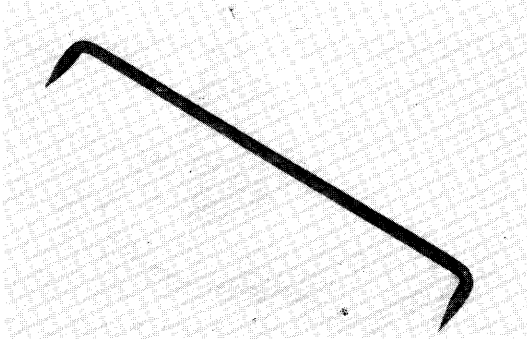
128. ゲージ
170×49
西杵炭鋳 昭和48年1月17日



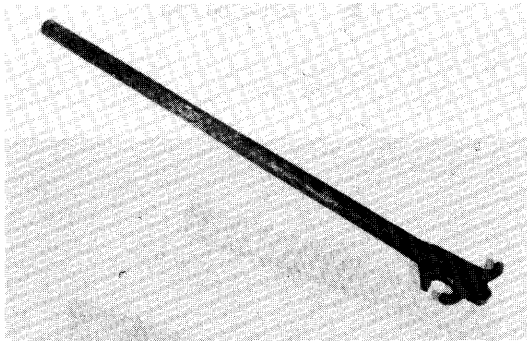
126. つんばのじょい (坑外用ワラジ)
190×92 昭和43年10月10日
備考一多久市南多久町牟田区、古賀繁雄氏 (明治43年10月生) 作成



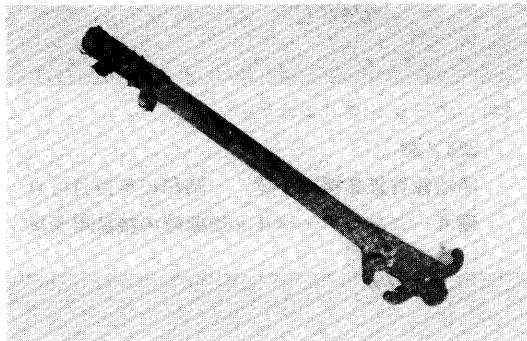
129. かすがい
180+57 13φ



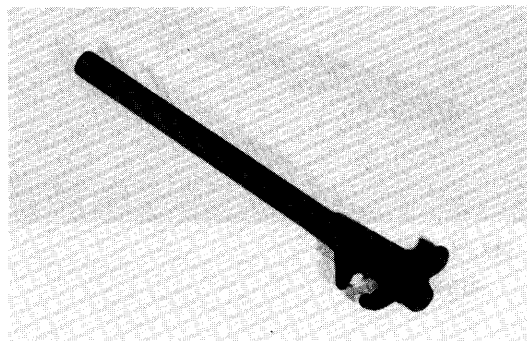
130. かすがい 70+463+70 13φ



131. [工具]



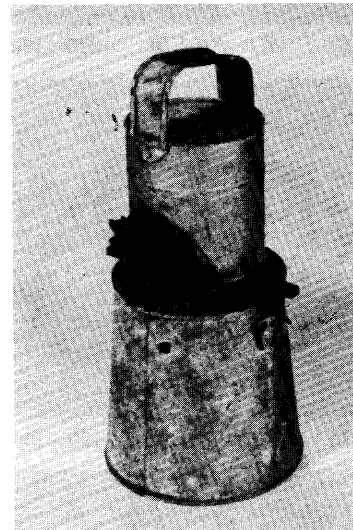
132. [工具] 明治鋳業 昭和48年1月18日



133. [工具]



134. カーバイト・カンテラ
337×143φ 傘 145



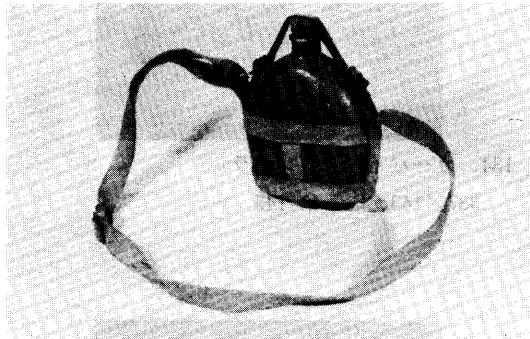
135. カーバイト・カンテラ
292×140
西杵炭鋳 昭和48年1月24日
備考一傘部欠



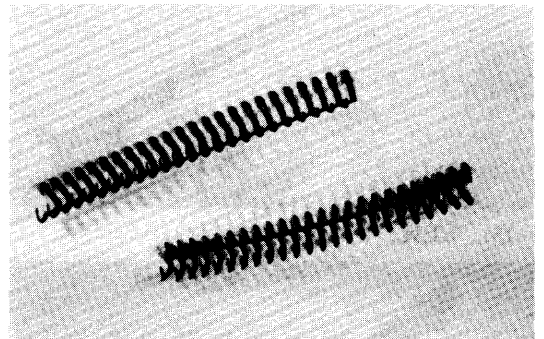
136. 水筒 アルマイト製 190×100×70



140. 水筒
アルマイト製 205×100×70



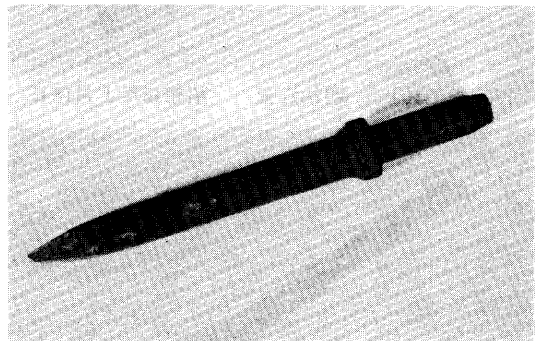
137. 水筒 アルマイト製 220×160×80



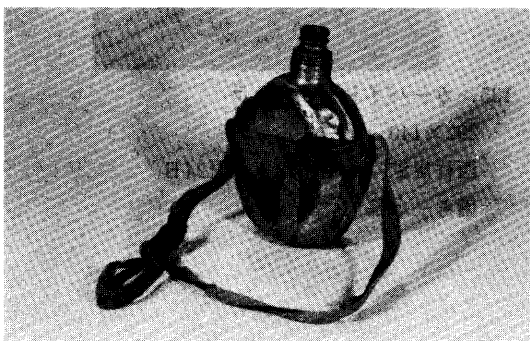
141. テーシング (ムカデ)
285×38
明治佐賀鋳業機械小屋 昭和47年12月11日
備考—コンベア・ベルト切断時の接続用金具



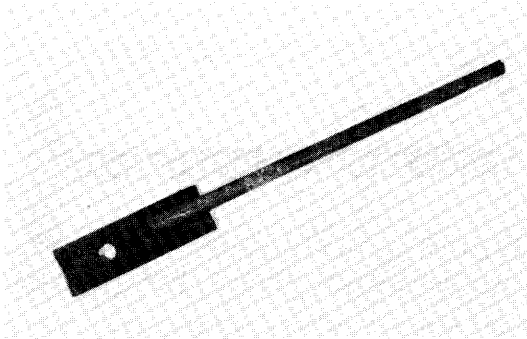
138. 水筒 アルマイト製 190×150×80



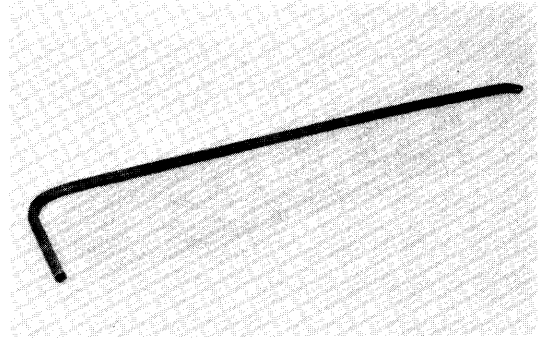
142. [工具]
315×40φ



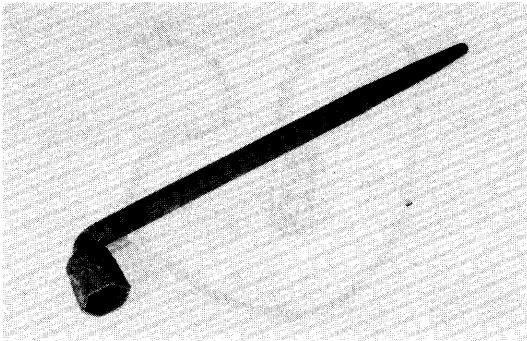
139. 水筒 アルマイト製 180×125×70



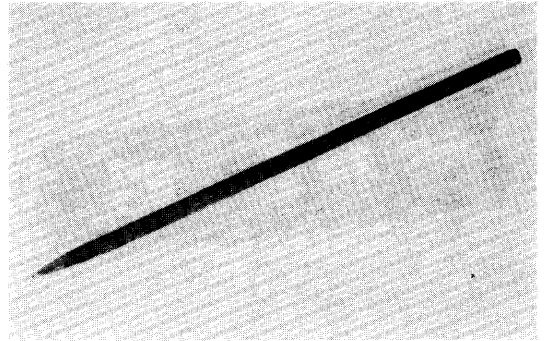
143. すじかい
全長 484 線径 15φ
取付部 151×50 穴 17φ



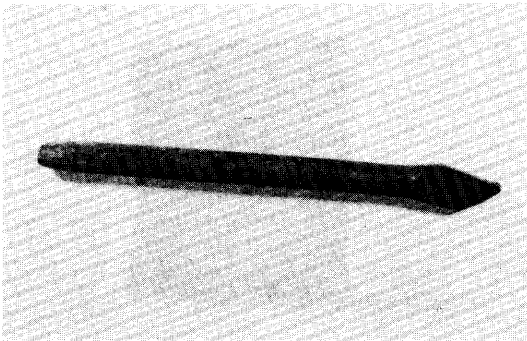
146. 銅管
410+100 径 7φ
明治佐賀鋳業施設課 昭和48年1月8日



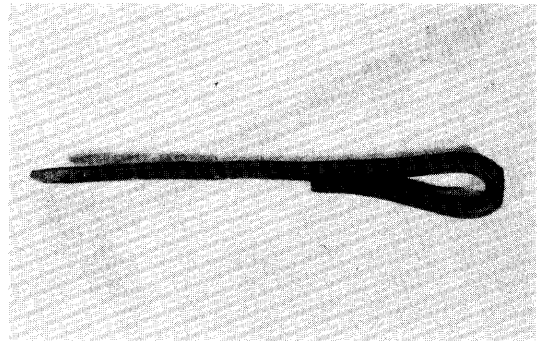
144. ボックス・レンチ
444+82
西杵炭鋳 昭和48年1月17日



147. [不詳]
394×12φ 先端部 45
明治佐賀鋳業 昭和48年1月8日



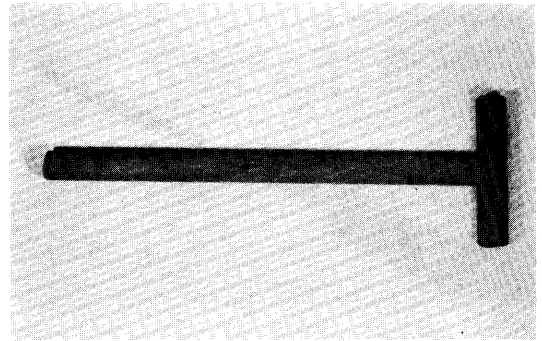
145. [不詳]
207×14φ 先端部 40



148. [不詳]
320×45 径 12φ



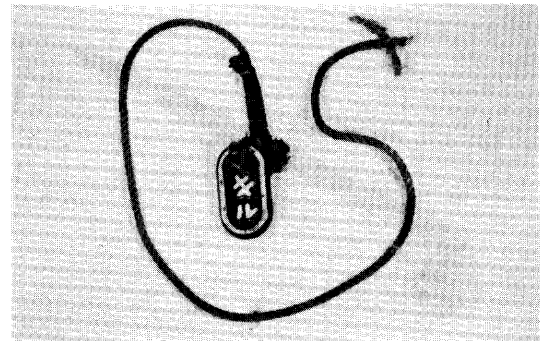
149. 名札
164×33×35



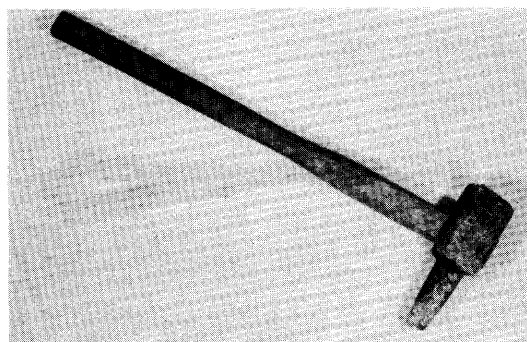
152. 杖木
384×125 径 25φ
西杵炭鋸 昭和48年1月17日



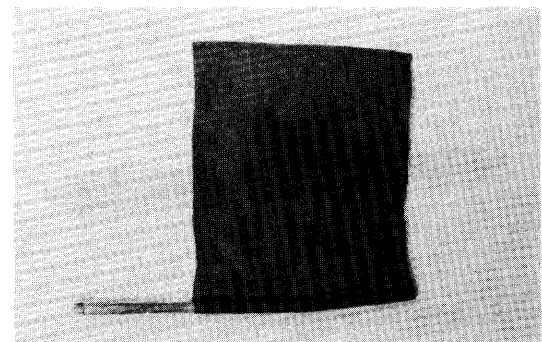
150. 名札
159×35×37



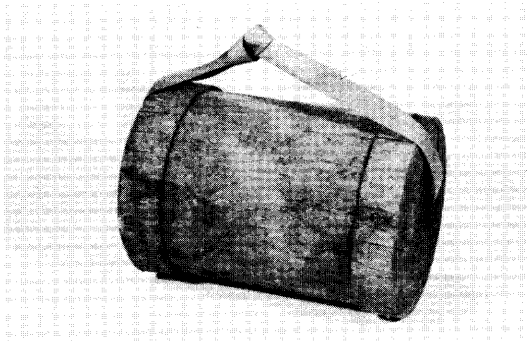
153. 〔開閉器引き紐札〕
120×57×17
陶器製



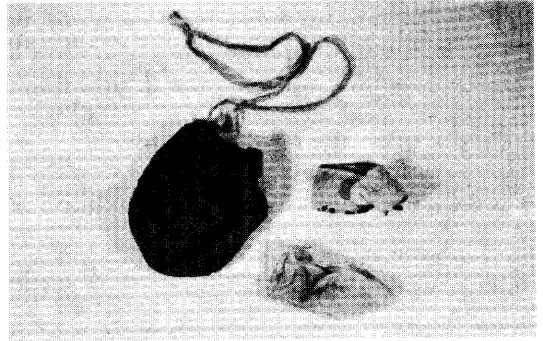
151. 金槌
柄 215 頭部 160×60φ



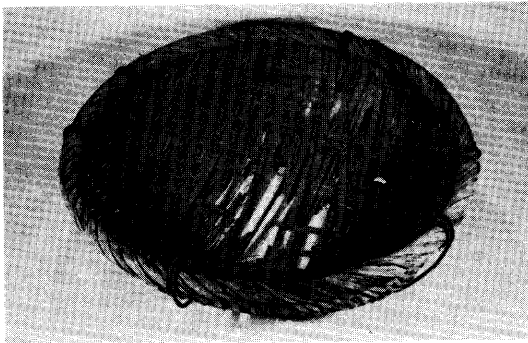
154. 〔赤色旗〕
342×290 竹棹 485



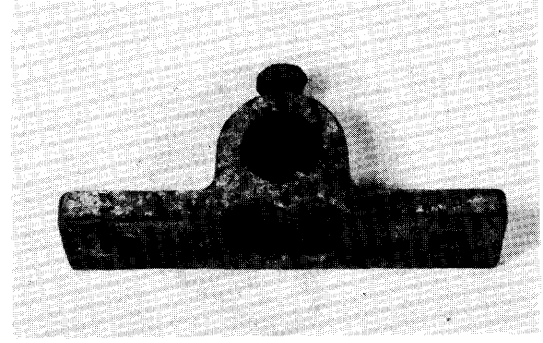
155. アンドン車
180×128φ
昭和48年1月15日
木製



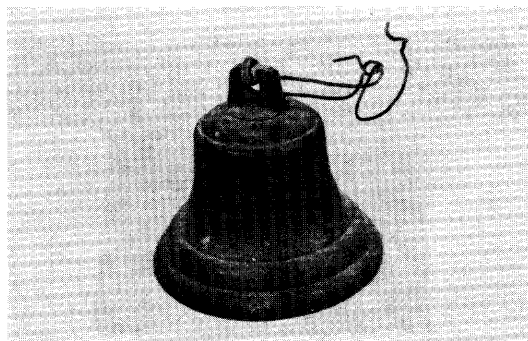
158. 〔布袋〕



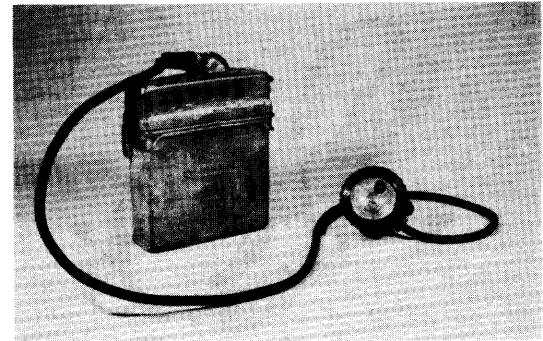
156. ザル
径 510φ 深さ 130
備考一底を針金で補強している



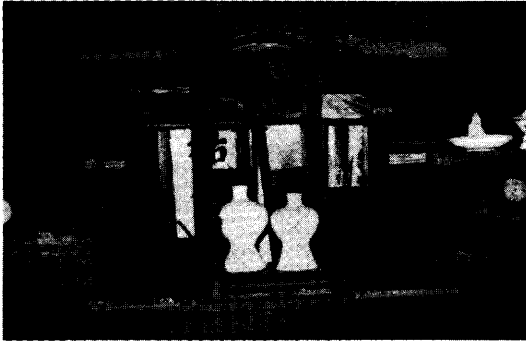
159. 車軸受（メタル）
取付座 190×50×15 軸穴 35φ



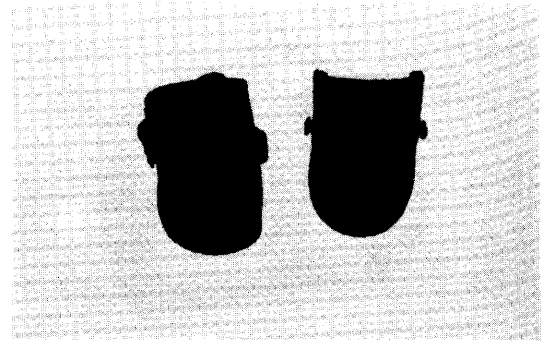
157. 〔人車用鐘〕
127×149φ



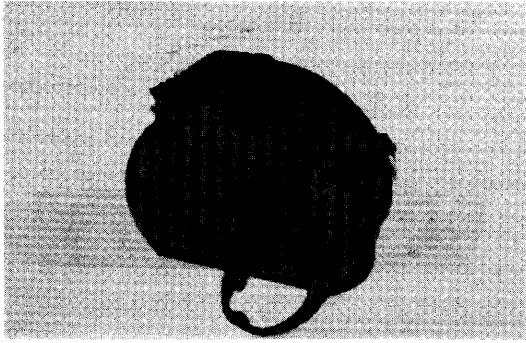
160. キャップ・ランプ
GS MINE LAMP TYPE C
バッテリー 45×145×175 ランプ 70φ



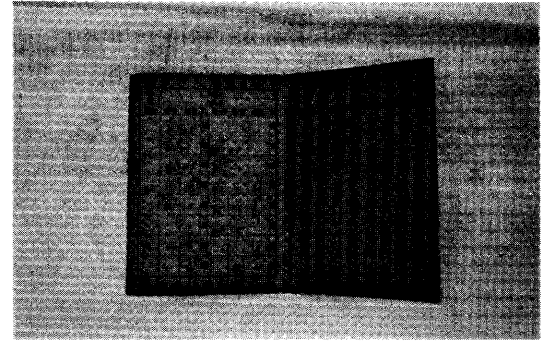
H-1. 山の神
380×420×170
杵島炭鉦



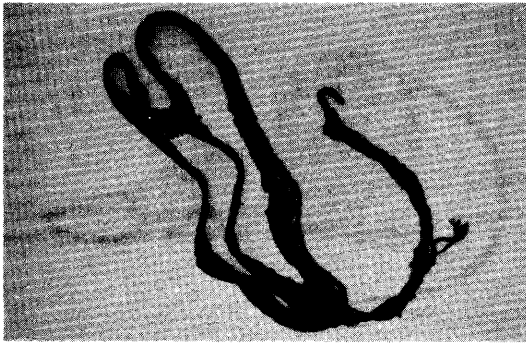
H-4. ひざぐつ
170×100



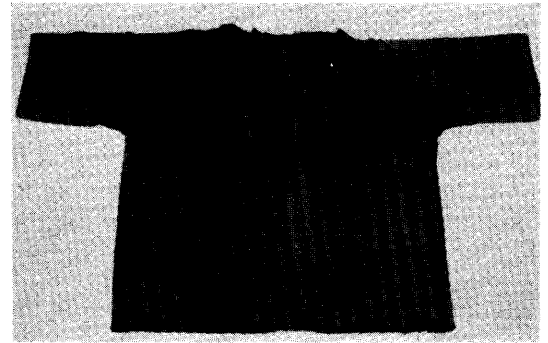
H-2. 水筒
250×280×95 昭和45年10月8日
備考一西杵炭鉦にて竹葉俊夫氏が拾得
紐付き アプリキ製



H-5. 勤務証印簿
127×89
西杵炭鉦 稲富公男



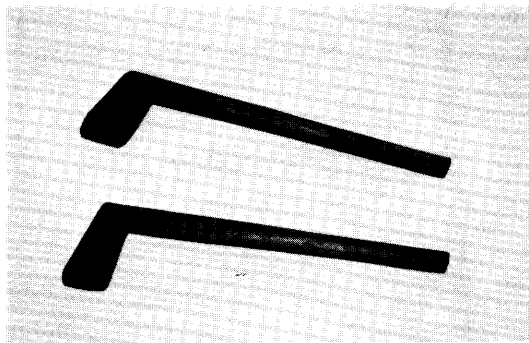
H-3. かるい
全長 930
備考一多久市柚之木原坂本光次氏作成



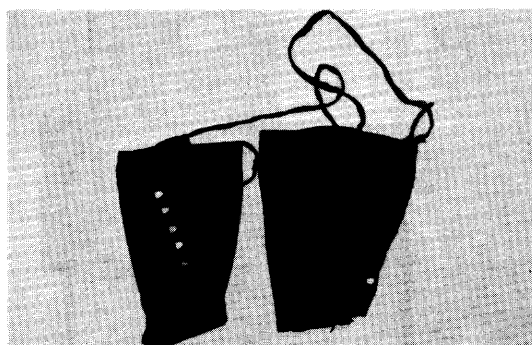
H-6. 作業着(男性用)
550×90



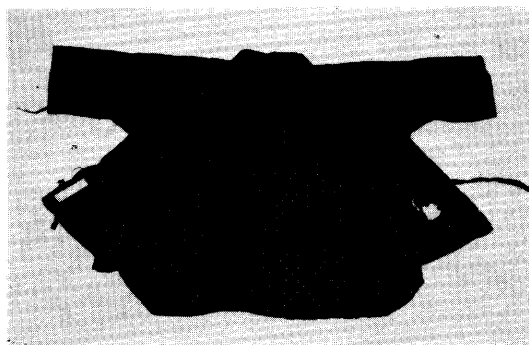
H-7. 道具入れ
270×320×80
備考—五坑採炭 2428 筒井 の記名あり



H-10. 杖木 (2本)
340×90



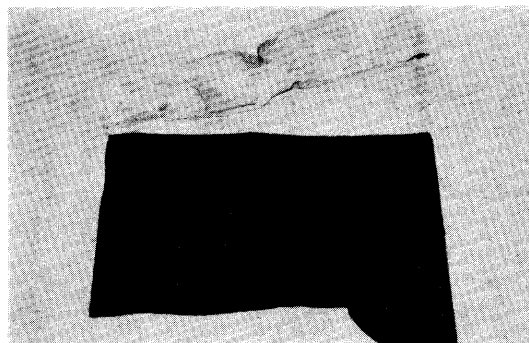
H-8. 脚絆
280×980



H-11. まぶぎ
520×800



H-9. 防塵マスク
TS.No.2 120×80×85φ



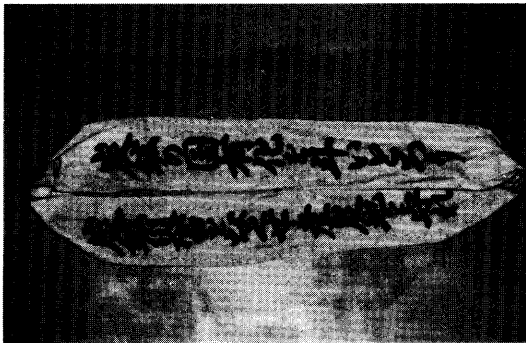
H-12. まぶべこ
540×1120



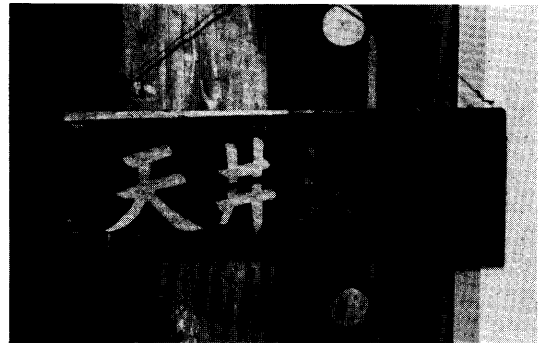
H-13. はちまき
910×70
「明治佐賀主婦会」



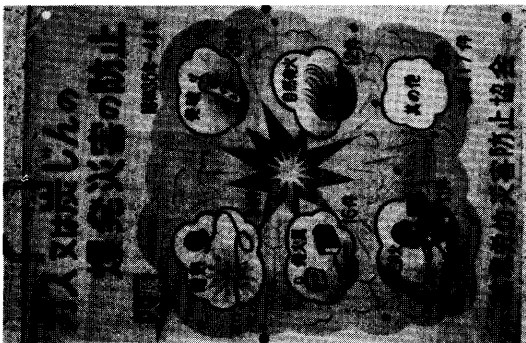
H-16. [看板作成用吹付形枠]
160×250 西杵炭鉱
「坑口 →」



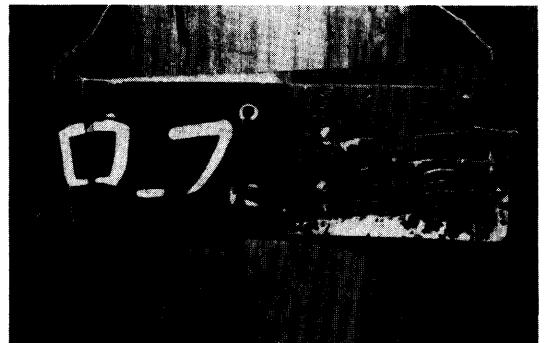
H-14. たすき
760×110
「炭鉱の国有化を斗いとうろう」
「炭鉱災害をなくせ・産炭地を守れ」



H-17. [看板作成用吹付形枠]
125×395 西杵炭鉱
「天井注意」



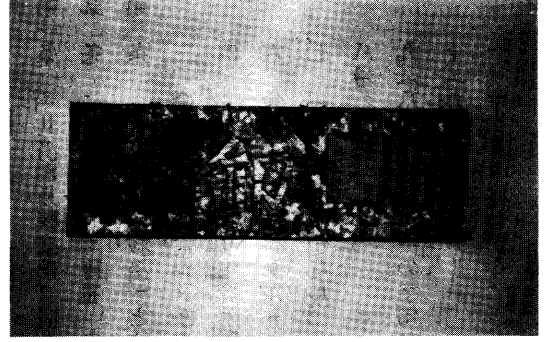
H-15. ポスター
610×435 鉱業労働災害防止協会
「ガス又は炭じんの爆発災害の防止」



H-18. [看板作成用吹付形枠]
75×245 西杵炭鉱
「ロープに注意」



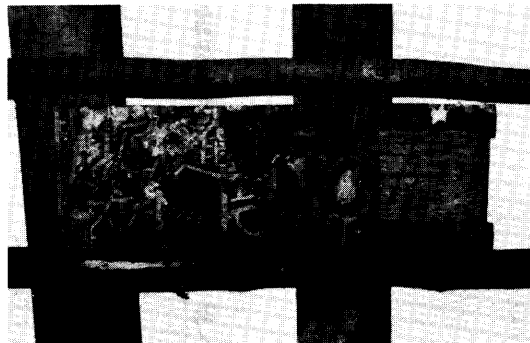
H-19.〔看板作成用吹付形枠〕
260×650 西杵炭鋺
「炭車に注意」



H-22.〔看板作成用吹付形枠〕
160×460 西杵炭鋺
「三卸□□」



H-20.〔看板作成用吹付形枠〕
110×380 西杵炭鋺
「切上中注意」



H-21.〔看板作成用吹付形枠〕
160×460 西杵炭鋺
「堀進 右十一片 No□」